

特集

アクト・ローカリー

〜エコロジカルな地域活性化〜

- 「寄稿1」 「グリーン・ニューデール」と地域再生への道……………16
一橋大学大学院経済学研究科教授 ● 寺西俊一
- 「寄稿2」 新しい風を受けて農村の活性化を構想する……………19
東京大学大学院農学生命科学研究科教授 ● 生源寺眞一
- 「寄稿3」 ガラスリサイクルを通じた産業創出……………22
板橋区長 ● 坂本 健
- 「寄稿4」 環境経済戦略〜環境と経済の共鳴を目指して……………25
豊岡市長 ● 中貝宗治

■とつておき！ 美しい都市の景観……………3

福山市（広島県）「ぼら公園」

■食から考える カ・ラ・ダイきいきライフ（服部幸應 監修）……………4

色鮮やかな名コンビで、血液をサラサラに ソラ豆とエビの炒め煮

■市長座談会……………5

「祭り」で盛り上げる地域の活力」

座談会出席市長 ● 山崎孝明・江東区長／川島信也・長浜市長／
岡崎誠也・高知市長／田上富久・長崎市長
司会・コーディネーター ● 細川珠生・政治ジャーナリスト

動き

■世界の動き／アフガン新戦略発表―オバマ大統領 時事総研客員研究員 ● 金重 紘……………28

■政治の動き／三木武夫と椎名裁定 政治評論家 ● 細川隆一郎……………30

■経済の動き／財政破たんとは何なのか 東京大学大学院教授 ● 伊藤元重……………32

■自治の動き／当座しのぎという政治の空白 ジャーナリスト ● 松本克夫……………34

■マイ・プライベート・タイム……………42

「悦ちゃん号」誕生の軌跡 寝屋川市長 ● 馬場好弘

■わが市を語る……………44

- ◆「味覚観光都市」と「北方領土返還要求運動原点のまち」 根室市長 ● 長谷川俊輔
- ◆豊かで元気な農山村と活力ある生活観光都市を目指して 喜多方市長 ● 白井英男
- ◆幸せ度の高いまちづくりを目指して 大田原市長 ● 千保一夫
- ◆「夢と感動のテーマシティ にらさき」の実現を目指して 蕪崎市長 ● 横内公明
- ◆市民力の結集でつくるおかげさまのまち 伊勢市長 ● 森下隆生
- ◆「住みよさ実感 瀬戸内交流文化都市 たけはら」を目指して 竹原市長 ● 小坂政司
- ◆自然・ひと・文化が共につくるきよらの郷 奄美市長 ● 平田隆義

■「都市における訴訟の係属状況に関する調べ」……………58

調査結果のポイント（平成19年度） 全国市長会事務局

■市政読書室……………68

■歴史に見る リーダーと、それを支えた人たち……………70

すぐれた主君はすぐれた師―上杉家と直江兼統（二）― 作家 ● 童門冬二

■編集後記……………72

人……………11
都市照明は個性、歴史、景観の演出です
照明デザイナー ● 石井幹子さん



市政ルポ……………36

岐阜市（岐阜県）
120周年の節目の年に描く輝く未来の青写真
岐阜市長 ● 細江茂光



祭りで盛り上げる 地域の活力



田上 富久
長崎市長(長崎県)



岡崎 誠也
高知市長(高知県)



川島 信也
長浜市長(滋賀県)



山崎 孝明
江東区長(東京都)

司会・コーディネーター

細川珠生

政治ジャーナリスト

日本各地で催される祭りは、生活に根付いた地域に欠かせない伝統行事として、長い歴史の中で受け継がれてきたものです。地域文化や伝統の継承、地域の連帯感の醸成、交流人口の増加による経済効果など、さまざまな効果があります。

今号の座談会では、祭りによる地域振興を意欲的に進めている山崎孝明・江東区長、川島信也・長浜市長、岡崎誠也・高知市長、田上富久・長崎市長にお集まりいただき、祭りの概要や効果、現在、実施している取り組みなどについて、幅広くお話しいただきました。(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

新住民も 伝統的な祭りを 楽しみたいという 潜在的な ニーズがあります。



山崎 孝明
江東区長(東京都)

各地で盛大に繰り広げられる祭り

細川氏 祭りをはじめ、年中行事、郷土料理、地場産業など、地域の風土や歴史の中ではくままれてきた文化は、貴重な資源です。とりわけ、地域住民が一体となって楽しむ祭りは、まさに活気や活力を与える上で、不可欠なものだといえるでしょう。

今回は、全国的に知名度がある祭りを有し、積極的にその祭りを地域振興に生かしている都市の首長にお集まりいただきました。それでは、まず各都市の祭りの概要や歴史などについて、お話しいただきたいと思えます。

山崎・江東区長 江東区で催される祭りの中で

ある鎮西大社諏訪神社の祭礼行事で、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。「龍踊」「太鼓山」など、ポルトガルやオランダ、中国などの影響を色濃く受けた奉納踊りを町会ごとに踊ります。

本格的な祭りは10月7日から9日までの3日間ですが、関連行事まで含めると、約4カ月も前の6月1日から始まります。

長崎市には、祭りを徹底的に楽しもうとする熱心な市民が多く、この「長崎くんち」においても、多くの市民が6月から本番に備えて、仕事や学校帰りに、毎日のように練習に励みます。そのような市民の気質が祭りを一層盛り上げていっているのです。

祭りを守り継承するには

細川 祭りとは、連続と地域の中で培われてきた地域文化です。これからも、しっかりと継承していかなければならないものだと思いますが、人口減少はもとより、価値観が多様化した現在では、その維持や継承も難しいところがあるのではないですか。

川島 やはり、歴史のある祭りですから、市民の間にはしっかりと伝統を守っていこうといった意識は強いですね。ただ、近年は、おっしゃるとおり少子高齢化が進み、なかなか難しい事情も出ています。山組と呼ばれる団体が、曳山ごとに担い手を組織化していますが、高齢化が著しい山組では、もはや自分たちの力だけでは祭りを担えなくなっています。やむを得ず、地域の大学や自衛隊に引き手を依頼するケースも出てきています。

田上 長崎市でも同じ問題があります。「長崎

も盛大なものは、毎年8月中旬に行われる福岡八幡宮の例祭「深川八幡祭り」です。日枝神社の山王祭、神田明神の神田祭と並んで江戸三大祭りの一つに数えられています。

一番の見どころは、3年に1度の本祭りの際に行われる連合渡御です。町内会の54基のみこしが町に繰り出し、約8kmのコースを練り歩きます。担ぎ手だけで約2万人、観衆を合わせると約50万人もの人出でにぎわいます。

連合渡御の際、沿道の観衆が担ぎ手に清めの水を勢いよく掛けることから、別名「水掛け祭り」とも呼ばれています。担ぎ手と観衆が一体となって盛り上がる祭りとして、江東区の大事な地域資源となっています。

川島・長浜市長 長浜市では、長浜八幡宮の春の祭礼である「長浜曳山まつり」が毎年4月9日から17日にかけて開催されます。祭りの起源は、羽柴(豊臣)秀吉が長浜城主であった400年以上も前にさかのぼります。秀吉に男子が誕生し、その祝いとして町人に砂金を振る舞ったところ、町人はこれを元に曳山を建造し、八幡宮の祭礼に引き回したのが始まりといわれています。

重要文化財に指定されている見送幕をはじめとして、歴代の名工が装飾した豪華絢爛な曳山は「動く美術館」とも称され、京都の祇園祭、飛騨・高山の高山祭と並び、日本三大山車祭りに数えられています。

祭りの期間中には、さまざまな関連行事が行われますが、目玉は江戸時代中頃から続く子ども歌舞伎です。5歳から12歳の男の子たちが曳山を舞台に、大人顔負けに熱演するさまは、多くの観衆を魅了します。

くんち」でも町内ごとに参加者を集めるのですが、昔ながらの区域である中心市街地の町会に新たにマンションやオフィスビルなどが建設されていくことによって、これまで祭りを支えてきた市民が少なくなっているという事情もあります。

山崎 江東区では不思議とそのような問題はありません。新しく江東区の住民になった人たちも含めて、多くの住民が担ぎ手として祭りに参加してくれています。むしろ、担ぎ手が多く、担ぎ手の着る半てんの数を制限せざるを得ないほど人気があります。新しい住民も伝統的な祭りを楽しみたいという潜在的なニーズがあるのだと思います。

岡崎 「よさこい祭り」は伝統を守るとい

祭りは コミュニティの 形成に不可欠。 その効用を 住民と共有 したいですね。



川島 信也
長浜市長(滋賀県)

岡崎・高知市長 高知市でもさまざまな祭りが行われていますが、最も知名度がある祭りは、8月9日から12日にかけて行われる「よさこい祭り」です。始まったのは戦後の昭和29年のことで、商店街の活性化と市の復興が目的でした。第1回当時の踊り子の数は、約750人とされています。それから半世紀以上経過した現在は、約200チーム、約2万人もの踊り子が全国から参加し、期間中には、全国各地から120万人を超える観光客が訪れるまでに発展しています。

この祭りの特徴は、何といっても、形式ばらない自由なスタイルにあると思います。チームごとに衣装にはさまざまな工夫が施され、曲もアレンジが自由、鳴子を持ってさえすれば、踊りのスタイルも問いません。この気軽さや自由さが受け入れられて、高知市はもとより、全国へ浸透しているのではないかと感じます。



田上・長崎市長 長崎市には、近年スタートした祭りも含めて多くの祭りがあります。その中で、最も大きな祭りといえば、370年以上の歴史がある「長崎くんち」でしょう。これは、長崎市民の氏神で

りも、新しいスタイルをつくり上げていく、進化させていくところに特徴があります。チーム編成も、年ごとに募集しており、毎年、大勢の市民が参加しています。

田上 「長崎くんち」も長い歴史がある祭りですが、同じような特徴があります。町会ごとに出し物を行う体制は維持されていますが、あまり伝統に固執せず、時代にに応じて出し物を変えたりなど、変化を遂げてきた「風流の祭り」ということがいえます。

細川 とところで、子々孫々まで祭りを継承していくためには、次世代を担う子どもたちの参加が重要だと思いますが、いかがでしょうか。

山崎 「深川八幡祭り」は、本祭りの前年に子どもたちによる連合渡御「子供神輿連合渡御」が行われます。次世代を担う子どもたちを主役に、祭りを体験してもらいたいと、平成13年から3年に1度行っているものです。子どもたちにとっては、地域の方々とも触れ合う大切な機会となっています。

田上 子どもの参加は、将来の後継者の育成といった意味でも重要ですが、教育の点でも大きな効果があります。「長崎くんち」も子どもの出演が多い祭りですが、祭りの準備期間も含めて、子どもたちはいろいろな規律を先輩から教わったり、自分の役割を与えられることで責任感を身に付けていきます。6月の時点ではまだ頼りなさげな子どもも、本番の10月になると、その様子や表情もすっかりしたものへと変化していきます。祭りならではの教育効果だと思います。

岡崎 同感です。「よさこい祭り」は、中学生・



田上 富久
長崎市長(長崎県)

地域の固有の文化は、本来祭りの発展において重要な要素でしょう。

田上 地域固有の文化は、本来、祭りにおいて重要な要素だと思います。長崎は1570年の開港以来、ポルトガルやオランダ、中国などの海外交流を通して、多種多様な伝統や文化を生み出しながら発展しました。日本、中国、西洋(オランダ)の文化がさまざまに融合しているため、「和華蘭文化」ともいわれています。「長崎くんち」をはじめとして、祭りというのは、このような地域文化が色濃く反映されているのです。

細川 近年は、地域住民の連帯意識が希薄化しつつあるともいわれています。地域の連帯感を取り戻すためにも、祭りが果たす役割は大きいように思いますが、いかがでしょうか。
田上 「長崎くんち」で行われる奉納踊りは各町会の持ち回りで、7年に1度、担当することになっていきます。担当する町会にとっては、

地域「コミュニティ」の強化に効果

根付かせていきたいと考えています。近年は、新たなイベントとして、高知市中心部のアーケードの中を会場にして、食やお酒、音楽、アートなどに関するイベント「土佐の『おきやく』」を展開しています。こちらも、市民総参加の市を挙げた一大イベントとして、

るものですが、新しいイベントも地域文化を土台に行う方が長く根付いていくと思います。長崎市では、平成6年から「長崎ランタンフェスティバル」を実施しています。これは、もともと中国の旧正月を祝う春節祭に、イベント的な要素を加味した祭りです。今では長崎市の冬を彩る一大行事へと発展しています。中国文化が長崎市民の中に深く溶け込んでいることが背景にあると考えています。
岡崎 新しい祭りが多くの市民に受け入れられるには、市を挙げた一体的な取り組みとして展開することも必要です。「よさこい祭り」は、一つのスポットで行うのではなく、市内の15もの商店街を舞台に行ったことが良かったのだと思います。広範な地域を舞台に実施したからこそ、市全体の祭りとして位置付けられ、市民が参加意欲を強く持つことができたのです。



川島 地域のもっとも大事な要素は、市民と共有することだと思います。その意味では、町会ごとに行う盆踊りなどの身近な伝統行事も大切ですね。
山崎 都会でも地方でも核家族化が進行しています。今や、祖父や祖母と一緒に暮らす子どもは珍しい存在です。そんな現在では、いざ、困ったときに大きな力となるのは、近所同士の支え合いの力です。そのコミュニティ形成の一つのツールとして、祭りの果たす役割は大変有意義なものだと思います。
みなんで一つになって祭りを楽しむ、祭りが終われば打ち上げの場で、知らない人たち同士もお酒を酌み交わす。そういったことを

山崎 参加者にとっては自分たちが楽しむことが一番ですから、江東区でもあまり観光を意識することはないですね。ただ、私としては祭りも観光振興に生かすという意識も大切だと考えています。
田上 観光を意識しないというのは、やはり共通のことのようですね。長崎市でもまったくそのとおりです。「長崎くんち」は10月7日から9日までの3日間行われるのですが、雨が降ると中止せざるを得ないこともあるため、

川島 市民の多くは、観光を意識することはあまりないと思います。祭りは地域の伝統文化の継承と考えるため、行政が観光振興を強調し過ぎると批判を受けてしまうでしょう。
細川 祭りは、交流人口の増加による経済効果など、地域活性化にも貢献します。個性豊かな祭りをどのように観光や地域活性化に生かされていますか。
山崎 観光を意図しないというのには、やはり

観光と伝統文化の継承の両方が大切

川島 お話ししたように、「長浜曳山まつり」は、子ども歌舞伎が有名です。春休みから約1カ月間練習を行い、本番に備えます。役者を演じた子どもたちは、その期間でいろいろな経験をして、大いに成長します。
高知生の参加者も多い祭りです。中には、不登校の生徒も参加したりするのですが、祭りが終わると、意欲的に学校に行き出すようになる生徒も多いと聞いています。みんな音楽に合わせて一体感や連帯感を感じながら踊ることで、その後の活動も前向きになるようです。



岡崎 誠也
高知市長(高知県)

市を挙げた取り組みとして展開。そうすれば、新しい祭りも受け入れられます。

観光の商品としては不安定です。そこで、祭りが終わった直後の土日に、室内会場を設けて、観光客向けにあらためて行ったことがあるのですが、大きな反響がありました。長浜市民と同様に、自分たちは神事として祭りを楽しんでいるのであり、観光のために行っているのではないという思いが強いのです。
祭りとは、参加者が自己表現を行い、それが深い満足感を与えるものであるため、あまり観光イベントの色彩を強めるわけにはいきません。ただ、行政としてぜひ多くの人にこの祭りを見ていただきたいという思いがある

岡崎 高知市にとって「よさこい祭り」は、紛れもなく観光資源の一つとなっていますが、観光にばかり意識を集中させると、参加者自身が楽しめなくなりますが、祭りが原因で廃れてしまえば本末転倒です。祭りを観光振興に位置付けることは大切ですが、あまり偏重せずにバランスを保つことは重要ですね。
新しい祭り・イベントの定着のポイント
細川 伝統的な祭りのほかにも、各都市では新たにイベントなども展開されていると思います。そのような新しいイベントの効果的な展開についても、お話しいただけますか。
山崎 東京は全国から人が集まる地域のため、いろいろな地域文化も入り込んでいきます。江東区でも「深川よさこい祭り」など、新しい文化・イベントが種々行われます。ただ、そうしたイベントや祭りがしっかりと根付くかどうかは別の話です。先々まで継承していけるものにするためには、担い手となるリーダーや地域の努力が必要だと思います。
岡崎 東京には新しいことを取り入れようとする懐の深さがありますね。私も高知市の観光課長時代に、原宿のよさこい祭り「原宿表参道元氣祭スーパージョッキー」の立ち上げ、運営に携わった経験があります。平成13年から始まったこの祭りも、年々規模が大きくなり、盛大に行われており、うれしい限りです。
ただ、その一方で、戒めなければならぬこともあります。よさこいが全国各地に浸透することで、地域の伝統的な祭りが廃れる危険性があると、警鐘を鳴らす方もいらっしゃる



細川珠生(政治ジャーナリスト)

通じて、新住民も地域に溶け込めるし、住民同士の融和も促進されます。祭りならではの効用について、見直されるべきでしょうね。

田上 近年、長崎市は、7つの町村と合併しました。地域には小さな祭りも含めて、運動会やイベントなど、市民同士が顔を合わせる場が種々ありますが、新市としての一体感を醸成するためにも、このような市民同士が触れ合う場を大切にしたいと思います。

地域に愛着を持つたり、自分も市民の一人であるとの意識を持つためには、市民同士がコミュニケーションを取る機会が不可欠です。その意味では、祭りとは、その期間だけの集いではなく、普段の市民生活にも大きな効用を及ぼすものだと思えます。

岡崎 日本中、どの地域でも夏祭りが行われていますが、本来、夏祭りは神社などの氏子を中心に行われるものです。しかし、今やそんな伝統的な地域の力が弱体化しているため、祭り自体も活気が失われる傾向があります。

皆さんがおっしゃるとおり、祭りがコミュニティの維持の上で果たす役割はことのほか大きいと思います。高知市内の小学校などではPTAなどとの協力の下、学校内で、地域

の名前が付いた祭りを開催するなど、地域の祭りや行事が身近で大切なものであることを再認識しています。

行政はバックアップに努めるべき

細川 最後に、行政として、地域の祭りをどのように発展させていくべきか、そのために、どんな施策を行うべきかについて、一言ずつお願いします。

田上 行政としてやるべきことはあくまでもバックアップでしょう。先ほど申し上げたように、祭りを観光資源として位置付けることで、その魅力が損なわれないようバランスを見ながら、PRなどもしていきたいと思えます。

山崎 祭りの運営などは、住民が自主的に行いますから、行政ができることといえば、道路の使用における規制の緩和などですね。

江東区では多くの観衆が祭りを楽しめる環境をつくろうと、「深川八幡祭り」では客席を設けることを検討していますが、残念ながら、現在は、関係各所の許可が得られていません。今後も、区長として粘り強く働き掛け、許可を得られる努力をしていきたいと思えます。

岡崎 道路の有効活用はぜひ、行政としても取り組みたい点の一つです。これまで、道路とは人や自動車が往来するものとの考えがありました。近年は「地域住民が楽しむ公共的な場所でもある」という考え方が国土交通省を中心に浸透してきています。まだまだ、国の規制が多い分野ですが、今後

は緩和されるように努めていきたいですね。
川島 長浜市では平成9年から、毎年10月第1週の土日に、商店街で「長浜芸術版楽市楽座（アートインナガハマ）」というイベントを行っています。これは、秀吉公が長浜のまちをつくるために行った楽市楽座を芸術の視点から再現し、芸術の似合うまちをつくろうと市民が立ち上がって行っているイベントです。全国各地から芸術家が約500人集まり、自らの作品の展示即売会を行ったり、パフォーマンスを行います。行政としてこのような意欲的な地域イベントも応援し、力を合わせて、

地域の活性化に結び付けたいと思えます。



細川 現在は、自分たちが住んでいる地域への愛着や地域住民としての連帯意識が希薄になっていくといわれますが、祭りは地域住民が一体となつて楽しむことで、そういった意識を取り戻し、さらに地域に活力を与えるものであることがあらためて分かりました。地域の個性である祭りを、住民と共に継承し、その素晴らしさをこれまでに以上に内外へ伝えてい

ただけたらと願っています。

(平成21年2月19日、全国都市会館にて実施)
本コーナーは隔月掲載となります。次回は7月号に掲載予定です。

特集

アクト・ローカリー ～エコロジカルな地域活性化～

われわれ人類が環境に負荷を掛け続けた結果、地球温暖化、森林減少、生物多様性の喪失など、地球規模の環境破壊が問題となっています。その憂うべき状況の中で注目されるのが「シンク・グローバリー、アクト・ローカリー」（地球規模で考え、地域で行動しよう）という思想です。環境との共生を図りながら持続的な経済成長、地域活性化を図る試みが各地で実践されています。今号の特集では「アクト・ローカリー ～エコロジカルな地域活性化～」というテーマで、環境維持と経済発展を両立する持続可能な地域活性化の在り方について考察します。

寄稿 1

「グリーン・ニューディール」と地域再生への道

一橋大学大学院経済学研究科教授 寺西俊一

寄稿 2

新しい風を受けて農村の活性化を構想する

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 生源寺眞一

寄稿 3

ガラスリサイクルを通じた産業創出

板橋区長 坂本 健

寄稿 4

環境経済戦略～ 環境と経済の共鳴を目指して

豊岡市長 中貝宗治

「グリーン・ニューディール」と地域再生への道

一橋大学大学院経済学研究科教授 寺西俊一



「経済危機」と「環境危機」の進行の中で

周知のように、2007年2月頃から懸念が高まっていたアメリカのサブプライムローン問題が背景となつて、昨年(2008年)9月15日、国際的な大手投資銀行の一つであるリーマン・ブラザーズが多額の負債を抱え込んで突如倒産するという衝撃的なニュースが世界を駆け巡った。これに端を発し、その後、瞬く間に世界全体が金融破たんと極端な信用収縮に見舞われた。さらに、それらに伴う市場需要の大幅減退によつて、实体经济もまた、大きな落ち込みを見せることとなった。かくして世界経済は、一変して「連鎖的同時不況」という暗雲の中につきぼりと包まれる状況になっている。

こうした事態は、特に自動車をはじめとする輸出中心の外需に、過度に依存してきた日本経済に対して、とりわけ深刻な影響を及ぼしている。他方、同じ2007年の2月から5月にかけて、「気候変動に関する政府間

パネル」(IPCC)の3つの作業部会から第4次の報告書が相次いで公表された。そこでは、「これからの人類社会の存亡にかかわる「地球温暖化」をめぐる問題が極めて危機的な状況にあるとする厳しい警鐘が鳴らされている。今、日本を含む世界全体が、かつてない深刻な「経済危機」(Economic Crisis)と「環境危機」(Environmental Crisis)、いわば「Double E Crisis」の進行という時代の難局に直面しているといつてよい。

にわかに浮上してきた「グリーン・ニューディール」

ところで、前述した「Double E Crisis」の進行という時代の難局の中で、昨年(2008年)から本年(2009年)にかけて、にわかには「グリーン・ニューディール」をキーワードとする、いわば「緑の景気対策」が世界各国で声高に提唱されるようになってきた。

まず、「グリーン・ニューディール」というキーワードを最初に提示したのは、

「クリーンエネルギー経済」を大胆に促進し、500万人の「緑の雇用」(グリーン・ジョブ)を創出するという政策目標が掲げられている。

さらにアジアでも、例えば韓国政府は、本年1月、「四大河川整備事業」など36の事業を「グリーン・ニューディール事業」と銘打って2012年までの4年間で約50兆ウォン(約3兆5000億円)を投入し、約96万人の雇用を創出していくと発表している。そして、こうした国際動向に刺激されて、

わが国でも、野党・民主党が、昨年12月6日に「日本版グリーン・ニューディール」の構想を発表し、本年1月に開催した同党の大会では、建物への太陽光パネル設置を支援するなどの「環境のニューディール」、小中学校校舎の耐震強化や介護職員待遇改善などの「安全・安心のニューディール」という公約を打ち出した。これに対して、政府与党サイドでも、環境省が本年1月から「日本版グリーン・ニューディール」の検討会合を立ち上げ、その結果を取りまとめ、環境大臣名での報告

イギリスの新経済財団(New Economics Foundation)による報告書(「A Green New Deal」2008年7月)である。これは、信用危機、気候変動、石油価格高騰という3つの問題を同時に解決するために、イギリスを念頭に置いて、金融・税制・エネルギー政策の再建を求め、特に再生可能エネルギーへの転換や環境再生事業による新たな雇用創出などを提案したものであった。その後、2008年10月には、国連環境計画(UNEP)が「グローバル・グリーン・ニューディール」を発表し、グリーン・テクノロジーと自然インフラ(森林保全と土壌保全)への投資による「緑の成長」を通じて、気候変動問題に対処するとともに、雇用も増やしていく必要があることを提唱した。また、これに続いて、「We can change」の政治スローガンを掲げて登場したアメリカのオバマ大統領もまた、本年1月の就任演説の中で「グリーン・ニューディール」の推進を宣言した。ここでは、今後10年間に約15兆円にも及ぶ資金を投じて

書(「緑の経済と社会の変革」)を4月20日に公表している。

中身が問われる「グリーン・ニューディール」

では、以上で簡単に紹介したような世界各国での「グリーン・ニューディール」は、果たして、現下の「Double E Crisis」の進行という時代の難局を着実に打開し、新たな経済社会への展望を切り開いていく起死回生策となり得るのだろうか。この点では、私自身は、かなり批判的な意見を持たざるを得ない。少なくとも、そこには、幾つかの留保条件をつける必要がある。

もちろん、「経済危機」と「環境危機」という「Double E Crisis」を同時に解決することを目指す「グリーン・ニューディール」を推進していくという構想自体については、特に異論があるわけではない。そこで問題となるのは、その具体的な中身である。実際、「グリーン・ニューディール」と称して実施されようとしている諸事業の中には、「緑の景気対策」の掛け声の下に、さらなる「緑の破壊」をもたらしかねないものも多々含まれており、その中身はまさに玉石混交である。つまり、その名に値しないものも少なくないのである。この一つの典型として、韓国政府が「グリーン・ニューディール事業」と銘打って推し進めようとしている前述の「四大河川整備事業」が挙げられる。

表 オバマ政権のアメリカ経済再生計画による州別の雇用創出予測(上位21州)

州	雇用創出予測人数(人)
カリフォルニア	421,000
テキサス	286,000
ニューヨーク	228,000
フロリダ	218,000
イリノイ	158,000
ペンシルバニア	152,000
オハイオ	142,000
ミシガン	116,000
ジョージア	113,000
ノースカロライナ	111,000
ニュージャージー	106,000
バージニア	99,000
マサチューセッツ	83,000
ワシントン	80,000
インディアナ	79,000
テネシー	75,000
アリゾナ	74,000
ウィスコンシン	74,000
ミズーリ	73,000
ミネソタ	70,000
メリーランド	70,000

http://www.whitehouse.gov/the_press_office/state_by_state_employment_impact/ の発表資料を基に作成。

新しい風を受けて 農村の活性化を構想する

東京大学大学院農学生命科学研究科教授

生源寺眞一



食生活を支える農業

一度は40%を割り込んだ食料自給率。いまだに解決を見えない中国製冷凍ギョーザによる食中毒事件。そして記録破りの高値を付けた穀物・大豆の国際相場。食をめぐるこれらの一連の出来事によって、人々の食料に対する関心、そして日本の農業・農村に対する関心が急速に高まっている。世界の食料問題、毎日の食卓、日本の農業・農村の3つが一挙につながったかのようだ。正確に表現すれば、3つの要素はもともと結び付いているのであるが、その連関が鮮やかに可視化されたわけである。

農業が食生活を支えていることはほとんど自明である。食の素材を供給する産業だからである。この意味で、食品の安全が脅かされ、食料の確保に不安が生じるとき、社会の目が農業に向かうことは自然である。他方で、私たちの食生活の在り方が日本の農業や農村の形を規定している関係にも注意が払われてよ

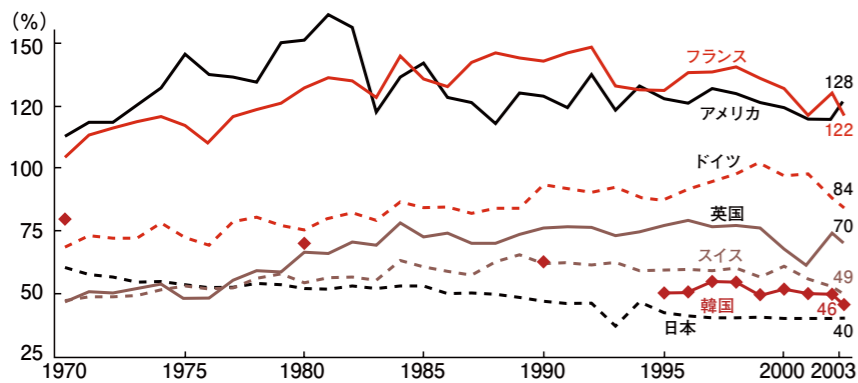
め方について、今後、国民的に再検討を求めていく必要がある。とりわけ、今秋9月までには確実に実施される総選挙は、そのための絶好の機会であろう。ここでは、われわれ有権者一人一人が賢明なる日本の政策選択を求めて明確な意思表示を行うことが重要となる。また、こうした中で、今後、日本各地の地方自治体が、それぞれによる個性的で独自の地域再生に向けて、一体どのような政策選択を進めていくかも決定的な意味を持つことになる。

特にこの点でいえば、環境省が取りまとめた先の報告書における「第2章 緑の地域コミュニティへの変革」の中に盛り込まれている内容は、私としても賛同し得るところが多い。例えば、ここでは「3年間の時限的な地域グリーン・ニューディール基金」を創設するという提案がさらっと書き込まれているが、これからは、まさに地方自治体こそが主役となり、各地域の中長期的なビジョンを練り上げて、本腰を据えた「自治体版グリーン・ニューディール」を多彩に展開していくことができるような分権的仕組みづくり（分権的な制度改革と財政改革がとりわけ重要）が不可欠である。私としては、日本社会のこれからの時代の展望は、全国各地での個性的な地域再生を通じてしか切り開かれていかないと、ここを、ここで特に強調しておきたいと思う。

211の品質情報発信

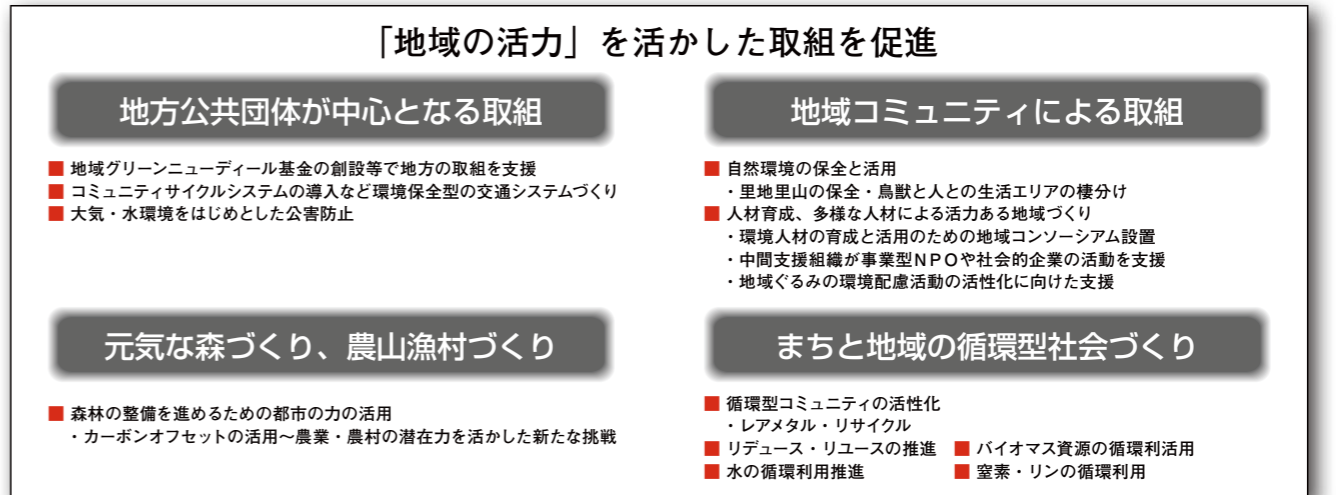
地域の農業は、変化する社会の関心にと

表1 食料自給率(カロリーベース)の推移



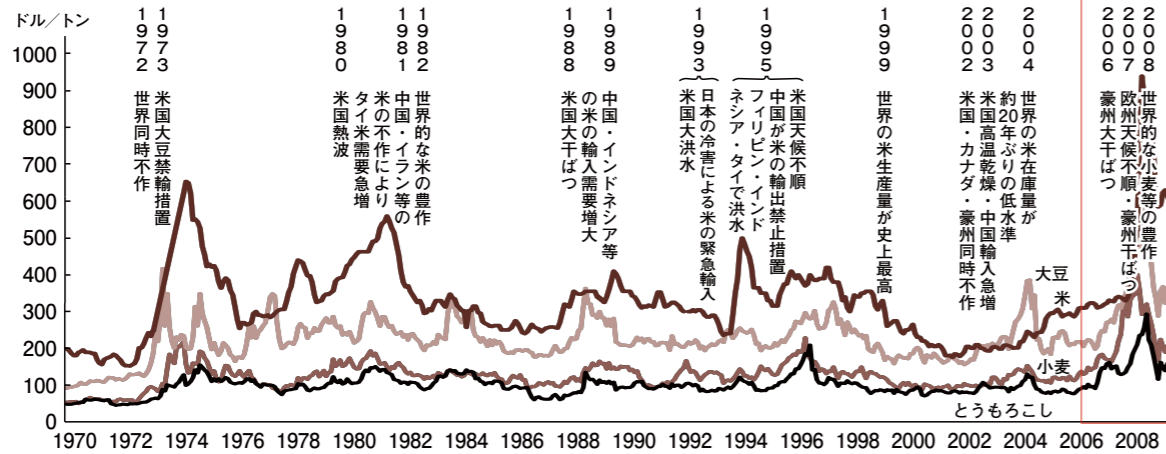
出典：農林水産省HP。日本以外の他の国についてはFAO「Food Balance Sheets」等を基に農林水産省で試算。ただし、韓国については、韓国農村経済研究院「食品需給表」による(1970,1980,1990及び1995～2003年)。

図 「緑の地域コミュニティへの変革」の概要



※環境省の「緑の経済と社会の変革」(概要版)を基に編集部で作成。

表2 主要農産物の国際価格の動向



注：小麦、とうもろこし、大豆は、各月ともシカゴ商品取引所の第1金曜日の期近価格である。
米は、タイ国貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

ように応えていくべきか。まず確認したいことは、日本農業の伝統的なストロングポイントが、高品質の農産物を生み出す「ものづくり」のDNAだという点である。日本の農産物の中にはアート(芸術品)と表現したくなるような逸品が少なくない。もちろん、アベレージの水準も高い。品質を誇る日本の農産物が、アジアの富裕層の食卓に向かっていくことも周知のとおりである。

しかるに、これからの地域農業の活性化を構想する際には、製品そのものの品質に加えて、製造工程の品質を意識することが大切である。製造工程の品質の良さを代表するのが、環境保全型農業の実践である。あるいは、農業の現場で働く人々の安全や健康への配慮も、製造工程の品質の重要な要素である。環境と人間を大切に「ものづくり」の精神は、地域に新たな付加価値をもたらすことであろう。地域の農産物が顧客から安定的に評価されるためには、製品の品質だけでなく、製造工程の品質を高い水準に維持する取り組みが必要だ。

製造工程の品質については、情報発信力の支えが決定的に重要である。なぜならば、製造工程の品質のレベルを製品自体から知ることが困難だからである。とはいえ、情報発信は難しいことではない。近年の日本の農村が大きく変わった点は、小さな地域の少数のグループでも、あるいは1戸の農家であっても、リピーターや潜在的な顧客に向けた効果

的な情報発信が可能になったことである。特に若い層の情報発信力の成長ぶりには目を驚かすものがある。

ローカルな資源の利活用

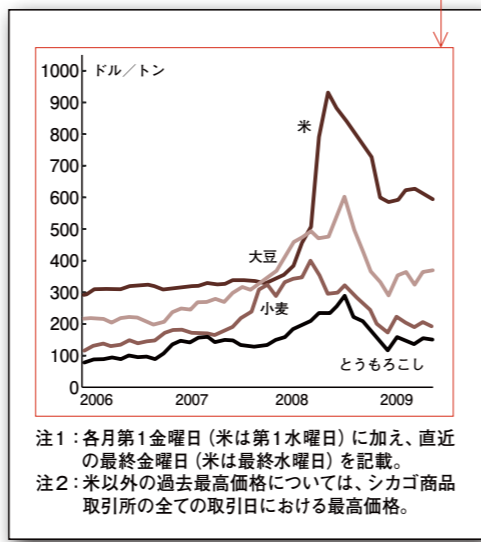
製造工程の品質を大きく左右するのが、ローカルな資源の利活用の在り方である。重要なのは、農業をめぐる資源の価値の体系が大きく変化していることだ。世界の食料需給が逼迫基調に転じたことで農地や農業用水の価値が上昇し、短期的な上下動はあるものの、化石資源の稀少化は代替エネルギーの価値を高めることである。あるいは廃棄物の処理容量の限界が見える中で、食品廃棄物の再利用の効果も上昇する。こうした資源の価値体系の変化は、地域の資源の利用システムの組み換えを要請する。

基本は、稀少性の増している資源をできるだけ節約し、相対的に潤沢になった資源を十分使いこなすことである。また、そのような特徴を有する技術の開発、移転、再発掘を進めることである。資源の賦存量の変化は、グローバルな文脈からのみ生じているわけではない。今日の日本に特徴的な要素として、例えば高齢化の中で団塊世代のパワーはなお潤沢であるし、耕作放棄地は日本の狭い国土にも余剰農地があることを意味している。もちろん、地域の資源の利用体系を直ちにならりと変えることは非現実的かもしれない。いま必要なことは、グローバルな環境の変化を踏ま

新たな動きを生み出し、支えるために

農業・農村に新しい風が吹き始めた。グローバルな要因に日本社会特有の要素が重なって、資源の価値の体系が変わりつつある。そんな中で、地域の資源を見直し、活用する新しい動きが生まれている。ただし、その広がりは十分とはいえない。そこで、自治体レベルの活動を念頭に置きながら、新たな動きを具体化し、サポートするための要点を挙げておきたい。

一つは、地域の資源のポテンシャルを発見するきっかけづくりである。いま大事なことは、地域の人々自身による地域資源の確認であり、発掘であり、活用に向けた課題の共有



注1：各月第1金曜日(米は第1水曜日)に加え、直近の最終金曜日(米は最終水曜日)を記載。
注2：米以外の過去最高価格については、シカゴ商品取引所の全ての取引日における最高価格。

内での施設の稼働に役立てている土地改良区もある。これも10年前には考えられなかった取り組みである。

そしてもう一つ、地域で生産される製品やサービスのブランド化を支援することである。ここでいう地域は、もちろん市町村であってもよいが、旧村や集落のような小地域の場合同様に、むしろ顧客への訴求力という点でシャープな効果が期待できる面がある。あくまでも個性的な製品やサービスを生み出している地域の広がりによって考える必要がある。ブランド化の支援などいささか大仰な表現を用いたが、ポイントは情報発信の手ほ

えながら、10年後、20年後の地域の産業と暮らしの形を資源賦存の観点から深く洞察することである。

そのような洞察に導かれた取り組みが始まっている。これまでは海外からの飼料穀物に大きく依存してきた畜産の分野でも、飼料イネを利用した付加価値型の養豚の元気がいい。荒廃の進む余剰水田の活用という点でも注目に値する。あるいは、かつては「カス酪」であるとか、「残飯養豚」といった身もふたもないネーミングで語られていた食品残渣を利用する畜産も、時代の先端を行く「エコフイード」の呼称の下で復活しつつある。幹線水路の水流によって生み出した電力を、管



ガラスリサイクルを通じた産業創出

板橋区長 坂本 健



はじめに

世界はいま、地球温暖化、エネルギー資源の枯渇という喫緊の課題に立ち向かわなければならぬ状況に直面しています。このような状況の中、日本を含めた先進国は環境産業の創出に政府が力を注ぐ「グリーン・ニューディール政策」を打ち出しました。すなわち環境ビジネスが世界的に大きなマーケットとして成長する可能性が膨らんできたのです。

このグローバルな流れをいち早く察知し、地域的に取り組んでいるのが「板橋区ガラスリサイクルプロジェクト」です。板橋区役所が中心となって多様な民間企業と協働する事業は、廃ガラスを資源ととらえ、価値のある商品として流通し得るマーケットの創造を目指しています。

また、マーケティング戦略となる事業コンセプトに「既存製品と同等かそれ以下の製品価格」「ガラスの特性を生かした高い品質・付加価値を持つ製品」という2点を掲げ、市場である「回収↓加工↓製品化」までをトータルで把握し、施工には地域の企業を活用することで、地域産業活性化に貢献します。

ビジネスモデルとしての新たな産業連鎖システム

ガラスを加工したガラスカレットは、産物として土木資材製品に活用できますが、その際、副産物として1ミリ以下のガラスくずが発生します。これまで、ガラスくずは産業廃棄物として処分していましたが、これでは処分費が製品コストに転嫁されることになり、価格競争力を奪ってしまいます。この課題を解決したのが、廃棄物を原料として利用するゼロエミッション型の新たな産業連鎖システム(図2)です。

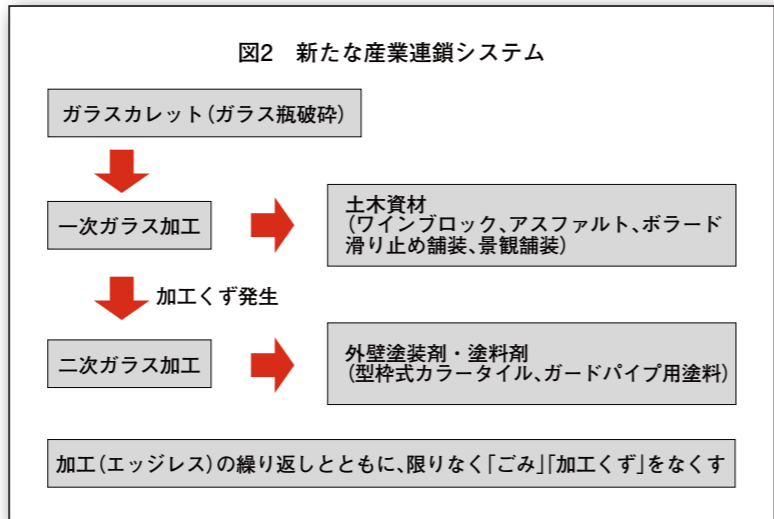
この新たな産業連鎖システムでは、一次加工でブロックなどの土木資材をつくる際に発生した加工くずを利用し、二次加工として外壁塗装用タイルやガードパイプ用塗料剤をつくります。土木分野では廃棄物となるものを建築分野・塗料分野でさらに原料として活用する。つまり、異なる分野の産業間で廃棄物を相互に「原料」として活用し、ゼロエミッションに近づく多業種産業リサイクルの連鎖システムなのです。このシステムから価格競争力を持つ製品を生み出すことによって、創造型・循環型モデルのマーケットが生まれま

競争力を持った製品づくりを目指しています。

「板橋区ガラスリサイクルプロジェクト」の事業スキーム

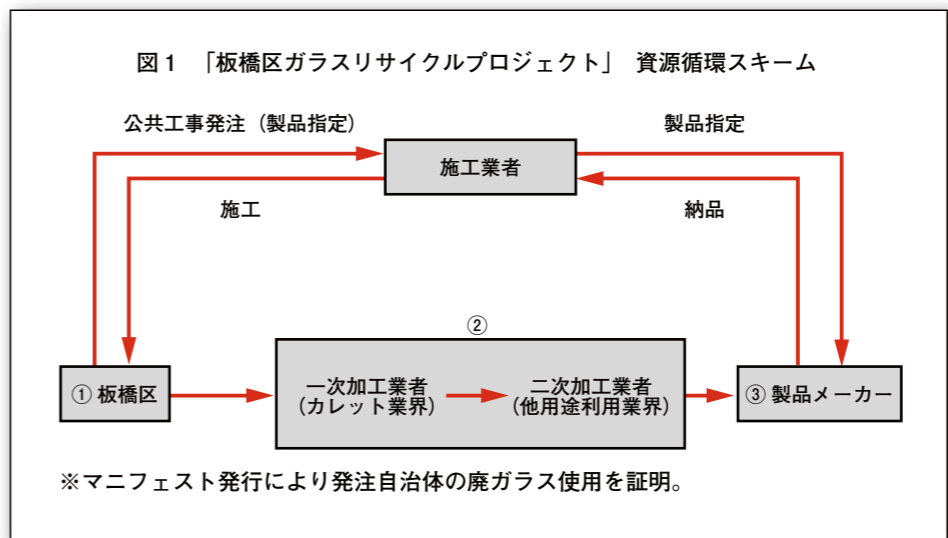
本事業では、色付き瓶のリサイクルに取り組んでいます。色付き瓶は資源として集めても再利用が難しく、自治体が再資源化費用を支払って引き取ってもらわざるを得ません。この状況を解決するため、新たな再資源化対策としてマーケット規模の大きい土木資材へ活用を図ることを目指しました。

図1の資源循環スキームにあるように、自治体が回収したガラス瓶を、加工業者が細かいカレットに加工(二次)し、さらに粒度やみすり加工(二次)を施した後、アスファルトやブロックなどの製品メーカーが製品化します。製品を自治体が公共工事に積極的に利用することで資源循環フローが達成されます。そしてマニフェスト発行により、発注自治体の廃ガラス使用が証明されます。一連の流れ



「まち・経済」を活性化するリサイクルが

新たな産業連鎖システムを構築しても、単



なるリサイクルで終わっては意味がありません。板橋区役所の近くにある四つ又商店街(P24写真)は、道路舗装・塗装にワインブロックをはじめとしたガラスリサイクル製品を使用し、「ガラスの街」として親しまれています。活気ある商店街の再生というテーマの下、まちづくりにリサイクルという視点を取り入れ、一面ガラスの美しい景観を実現しました。リサイクルを目に見えるものとして、区民に視覚的に訴えることで意識啓発にも一役買っています。

また、都市部ではヒートアイランド現象が大きな問題となっており、各地で保水舗装・遮熱舗装などの対策がなされています。本事業では保水舗装製品として、「保水性ワインブロック」を開発・施工しました。この「保水性ワインブロック」はアスファルトと比較して最大14・8度の温度低減効果があります。さらにガラスの特性により、天然骨材を使用する保水性インターロッキングブロックと比較し、3・8度の温度低減と、長時間の温度低減持続が見られました。「ヒートアイランド現象の緩和」「環境に配慮したリサイクル」という2つの課題を同時にクリアしながら、従来品よりも付加価値が高い理想的な製品となったのです。

このように、ガラスによって四つ又商店街に代表される美しい景観づくりに加え、ヒートアイランド対策が可能になりました。さらに打ち水の実施などで、夏場も涼しい商店街

寄稿

4

環境経済戦略と環境と経済の共鳴を目指して

豊岡市長 中貝宗治



環境経済戦略の意味

「コウノトリと人間と、どちらが大切なのか?」「少しは人間のことも考えたかどうか?」



豊岡のシンボル・コウノトリ

「環境保全で飯が食えるか」日本の野外で一度絶滅したコウノトリの野生復帰を平成3年に初めて訴えて以来、野生復帰を進めようとする私たちは、絶えずそのような批判にさらされてきました。平成17年3月、豊岡市はその批判と疑問に対する行政としての正式な答えをまとめました。それが、豊岡市環境経済戦略です。環境と経済の関係にはさまざまなバリエーションがあります。一方の極に、例えば公害のように、経済が環境を徹底的にいじめながら経済は繁栄する、という関係があります。他方の極に、環境を守るために徹底して経済をいじめる、経済に制約を課する、という関係もあります。しかし、そのどちらでもない、第3の関係があるはずで、環境を良くする行動(環境行動)によって経済が活性化し、俗な言葉で言う「もうかる」。環境を良くしてもうかるなら、もっと良くしたらもっともうかる、と欲がわいて、環境行動がさらに広がる。そのような、環境と経済が共鳴し合う

関係があるはずで、私たちはそれを「環境経済」と名付け、豊岡でその具体例を積み重ねつつあります。コウノトリの野生復帰

コウノトリは羽を広げると2mもある、白い大きな鳥です。かつては日本の至る所で見られる鳥でした。しかし、明治期の鉄砲による乱獲、第2次世界大戦中の松林の伐採、戦後の環境破壊によって数を減らし、昭和46年、日本の野生最後の1羽が死んで、コウノトリは日本の空から消えました。絶滅の前に保護活動が始まり、昭和40年には野生の鳥を捕まえて人工飼育が始まりましたが、最初の24年間、来る年も来る年も1羽のヒナもかえりませんでした。しかし、平成元年、人工飼育の開始から25年目の春、待望のヒナが誕生します。以来21年連続でヒナがかえり、この原稿を書いている平成21年4月24日段階で133羽のコウノトリが豊岡で暮らし、そのうち27羽が自由に空を飛び、さ

をアピールできれば、環境に配慮した商店街としての価値が生まれ、商店街や地域の活性化への貢献も大きく期待できることとなります。また、東京23区ではヒートアイランド現象が原因の睡眠障害による健康被害で年間約44億円の医療費負担があるという試算があります。「保水性ワインブロック」を病院や福祉施設に施工することで熱帯夜が和らげば、高齢者が安心・安全で健康的な生活を送ることができ、さらに医療費の削減につながる。このように、リサイクルは「まち・経済」を活性化することができるのです。

近隣自治体のネットワーク化による広域循環型社会の構築

廃ガラスが環境ビジネスのマーケットにおいて有価商品として取引されるためには、板橋区のマーケットのみでは到底足りません。そこで、近隣自治体へ同様のシステム構築提案を行い、広域的なリサイクル事業に発展させるべく働き掛けています。実際に、ガラスカレット業界の組合である東京硝子原料問屋協同組合との協定によって、地域内で発生したガラス瓶を土木工事に使用する仕組みをつくっている自治体が複数あります。

この仕組みがより多くの自治体に広がり、ガラスのマーケットが拡大すれば、環境ビジ

ネスの商品として取引されるようになり、工事に使用する廃ガラスが不足すれば近隣の自治体から購入するといった循環が生まれるのです。地域内を軸とした広域循環型社会が、近隣自治体のネットワーク化を通じて実現できるのです。

おわりに

「大量生産・大量廃棄からの脱却」「資源循環型システムへの転換」、また「低炭素社会に向けたCO₂削減」は、社会共通の課題です。資源循環型システムの中でCO₂削減を徹底しながら、いかに環境ビジネスのマーケットを創造するか、それは一企業や一自治体の枠の中だけでとらえられるものではありません。資源(原料)調達・加工・製品化するすべてのプロセスの中で無駄を省き、ゼロエミッションを目指しながら新たなマーケットを生み出すには、新たな産業連鎖システムが不可欠なのです。

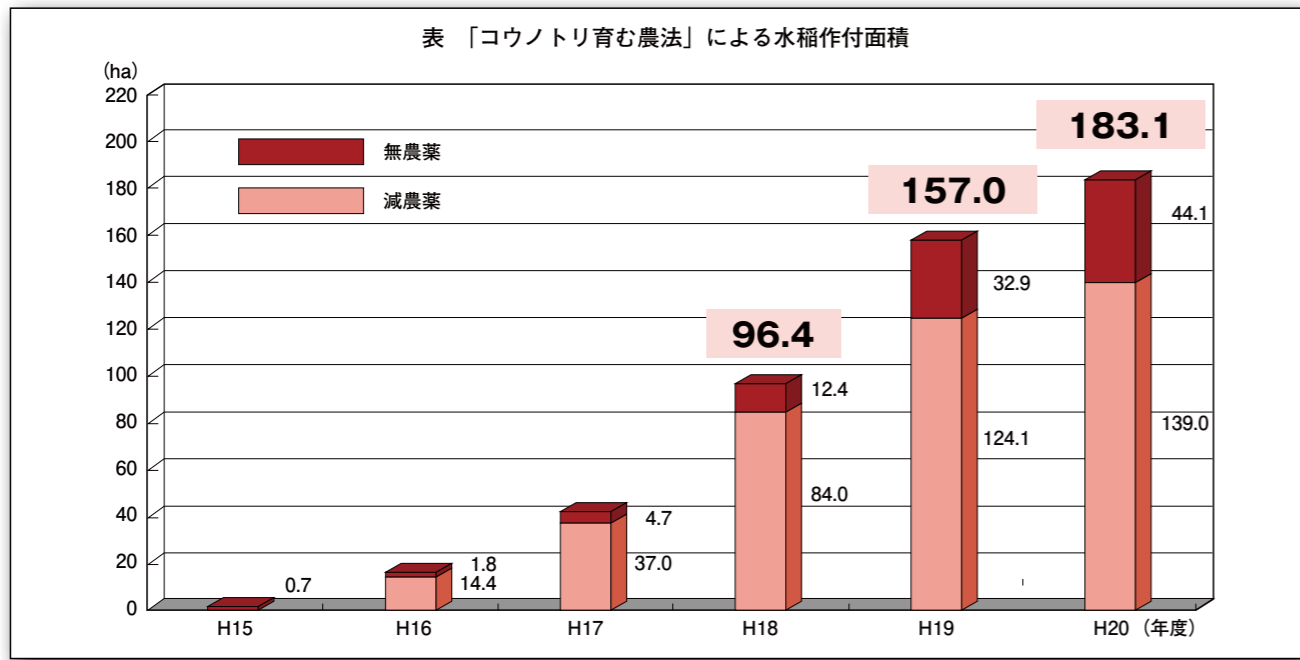
マーケットが醸成されれば、自治体の役割は工事発注に限定され、回収を含めたりサイクル事業から解放されるでしょう。

広域的な循環型社会の構築により環境ビジネスのマーケットが確立することで、地域の企業が活性化し、まちが元気になる。リサイクルは、産業創出・活性化につながるものなのです。



約50万本の瓶を使用した「ガラスの街」四つ又商店街

ガラス入りボラード(車止め)



ます。環境と経済は矛盾しないという例です。また、廃タイヤを利用した振動反射・吸収技術が豊岡市で開発・実用化され、大阪のモノレールの振動に苦しむ住宅の対策に採用されています。

農業も決定的に重要です。コウノトリに最近とどめを刺したのは農薬でした。そこで、豊岡市では、県、市、農協、農業者が一体となって、①農薬に頼らない技術体系の構築②認証制度による農産物の安全・安心ブランド化の2つを進めてきました。稲作に関して確立された「コウノトリ育む農法」による作付けは急速に広がっており、平成20年度の作付面積は約183haとなっています。「コウノトリ育む農法」で作られた無農薬米は、高いブランド性を有し、店頭で通常の米の2倍程度で売られています。

大豆の契約栽培も始まりました。「コウノトリ大豆」と名付けられた無農薬・減農薬の豊岡産大豆は通常の大豆の3倍の値段で取り引きされています。この大豆を使って作られた「コウノトリおぼろ」という豆腐は、一丁1000円で売られ、好評を博しています。作付面積は平成20年度、約20haになりました。コウノトリツーリズムも盛んになってきました。平成17年のコウノトリ自然放鳥以来、兵庫県立コウノトリの郷公園の来訪者は激増しています。平成16年度約12万人であっ

たのが、平成20年度には約42万人となっています。城崎温泉に泊まって「コウノトリ育む農法」で作られたお米を食べ、メインディッシュは但馬牛という旅行商品も好評を博しています。中国、韓国から環境学習旅行でやってくる人も増えてきました。豊岡の環境が良くなればなるほど多くのコウノトリが空を飛び、多くの人々が豊岡を訪れ、農業も活性化します。これも環境と経済が共鳴する関係の例です。

豊岡市は、環境経済戦略に沿った技術開発、商品開発に補助をし、あるいは研究者と企業を結び付ける制度を設け、環境経済の具体例の集積を図っています。

おわりに

最近、「グリーン・ニューディール政策」に期待が高まっています。豊岡の環境経済戦略が環境行動の持続可能性をどう確保するか、という問題意識からスタートしたのに対し、「グリーン・ニューディール」は経済の活性化をどうするか、という問題意識からスタートしました。最初の切り口は異なりますが、目指す着地点は同じです。

私たちの国が、環境を良くする、まさにそのことによって経済発展を遂げているという国になることができれば、それこそ私たちは世界に向かって日本を誇る事ができるだろうと思います。



らに6羽のヒナが野外の巣の中ですくすくと育っています。

「コウノトリも住めるまち」を創る、それが私たちの目標です。

コウノトリは完全肉食の大型の鳥です。そのような鳥ですら野生で暮らすことができるようになったとすると、そこには膨大な量の、そしてたくさんの種類の生き物が存在するはず。そのような豊かな自然は、人間にとっても素晴らしい自然と言えます。さらに、そのような鳥ですら暮らせるように自らの暮らしを変えていく文化のありようもまた、人間にとって素晴らしいものだと言えます。そこで、コウノトリの野生復帰をシンボルにして、コウノトリが住めるような豊かな

自然環境と文化環境をもう一度創り上げようというのが、野生復帰事業の最大の狙いです。

その目的を達成するために、これまでに環境創造型農業の推進、ビオトープ水田や水田魚道の設置、河川の自然再生、湿地公園の開設、環境教育などさまざまな取り組みがさまざまな主体によって行われてきました。

環境経済戦略の狙い、柱、具体例

環境経済戦略はこのような活動の中から生まれてきました。

環境経済戦略の狙いは大きく3つあります。

1つ目は、環境行動の持続可能性を確保することです。環境行動は、頭では分かるが長続きしない、という厳しい現実があります。しかし、環境問題を解決するためには、環境行動は続かないといけないし、広がりがないといけない。そのためには、経済によって裏打ちされることが有効だ、という考えです。

2つ目は、自立を達成することです。暮らしも財政も経済が支えています。自立するためには、地域経済の活性化が不可欠です。では、日本の片田舎で、どのような分野なら経済発展の可能性があるのか。その有力な分野が環境だということです。

3つ目は、誇りを支えることです。もし豊岡が環境破壊によってではなく、環境行動によって生計を成り立たせているまちになった

としたら、私たちは自分自身を大いに誇ることができるとしよう。その誇りをまちづくりのエネルギーにつなげることができそうです。

環境経済戦略の柱は①環境経済型企業の集積②環境創造型農業の推進③コウノトリツーリズムの展開④地産地消の推進⑤エコエネルギーの5つです。

具体例を紹介しましょう。

豊岡にカネカソーラーテックという太陽電池を製造する企業があります。人々が地球温暖化防止に貢献するため太陽電池を設置すればするほど二酸化炭素は減り、企業は繁栄し

豊岡市環境経済戦略

環境を良くする取り組みと経済活動が、刺激し合いながら高まっていく。
「環境と経済が共鳴」するような地域を創りあげる!

その狙いは?

持続可能性 自立 誇り

120周年の節目の年に描く 輝く未来の青写真

着々と整備が進む 県都の新たな「顔」づくり

市制施行120周年を迎えた岐阜市の今年度のキーワードは「翔る(かける)」である。この言葉にかける思いを細江茂光岐阜市長は次のように語る。

「金融不況後の厳しい状況下で、新年度を迎えました。しかし、そのような厳しい状況だからこそ、岐阜市は、すべからず協働の精神で敢然と立ち向かう必要があります。豊かな歴史や資産を足掛かりに、市民の皆さんや市内に立地する企業、大学などと手を携えなくてはなりません。『翔る』というキーワードには、暗く重苦しい現在の時勢から、協働の精神で、明るい未来に向けて翔け上がるという思いが込められているのです」

岐阜市ではこの市制施行120周年に当たる今年度、市主催事業、市民公募自主事業を併せ、さまざまな記念事業を実施する。

「120周年を迎えた今年度は、さらに、未来への礎としての新たな『教育』システムの構築、未来への備えとしての市民の暮らしの『安心』の実現、未来の『元氣』の源泉となる新たな産業と交流が生み出す活力の創出、それらをより一層の重点政策の柱としてまいります。同時に『不断の行財政改革』にも引き続き、精力的に取り組んでいくつもりです」(細江市長)

その象徴的プロジェクトの一つが、岐阜市の表玄関であるJR岐阜駅周辺の再開発だ。北口駅前の西側にそびえる「岐阜シティ・タワー43」は、平成19年に完成したばかりの地上43階、地下1階の超高層ビルで、岐阜駅西地区第一種市街地再開発事業として建設された複合ビルだ。建物の高さ163mは中部圏最高(平成19年現在)で、低層部分には商業施設のほか岐阜放送本社が入り、6階から14階は高齢者向け優良賃貸住宅、15階から42階は分譲マンション、最上階はスカイラウンジと

展望台になっている。ちなみに分譲マンションは平成17年の販売開始と同時に即日完売したという。

北口の駅2階から翼状に左右に延びるペDESTリアンデッキ(U字型デッキ)に囲まれた駅前広場では、植栽工事が着々と進みつつある取材は3月末。北口駅前広場は、完成すると在来線の駅としては全国一の広さになる。

「JR岐阜駅は『杜の駅』をイメージしています。北口駅前広場が完成すると、植栽された樹木がちょっとした杜のようになります。どちらかというと住宅街区の色が濃い南口側駅前には清楚で静謐なイメージです。対照的に北口側は、都心部がある岐阜市の玄関口としての利便性の向上や、都市機能の充実化が図

細江茂光
岐阜市長



中心市街地活性化の起爆剤ともなった岐阜シティ・タワー43は岐阜駅前にそびえる新ランドマーク

られます。私たち市民が長い間待ち望んでいた、岐阜都市圏100万人にとつての新たな岐阜の顔、シンボルとして位置づけています」(細江市長)

中心市街地活性化の柱は 岐阜駅前から柳ヶ瀬までの再開発計画

岐阜駅周辺だけではない。飲食店の集積を中心とする商業地区として、全国的にも有名な柳ヶ瀬地区の再開発事業、北口駅前商業地区の再開発事業、鵜飼で知られる長良川河畔の伝統的な町並み景観(川原町地区)の整備なども同時に進められている。こうした複数の再開発事業が動き出す契機となったのが、岐阜シティ・タワー43の成功にあったと細江市長は言う。

「繊維関係の間屋街が多く集積している北口駅前、都心部への動線を考えると人の流れの面が停滞の原因となっていました。以前から再開発の必要性が議論されてはいたものの、動きは活発ではありませんでした。しかし、シティ・タワーの成功で急速に活気づき、今年中には37階建ての超高層再開発ビルが着工される運びとなっています(注：間屋町西部南街区第一種市街地再開発事業。平成23年度竣工予定)。このビルにも約200戸の分譲マンションが上層部に建設される予定です」

岐阜市は平成18年度中に中心市街地活性化基本計画を策定し、翌19年度早々に国の認定を受けた。岐阜駅前から柳ヶ瀬に至る地区の



市民のまちづくり会議も開催される柳ヶ瀬あい愛ステーション
(写真は「まちあるきマップ」編集会議の様)



岐阜市が提唱するスロートーリズムを支える柱の一つは
市営のレンタサイクル

(岐阜県)

昨年11月15日、J.R岐阜駅に隣接する岐阜市文化産業交流センター（じゅうろくプラザ）において「第1回 信長学フォーラム」と題するイベントが開催された。美濃を制するものは天下を制すとうたわれた戦国時代、数ある戦国武将の中でも個性際立つ一代の風雲児・織田信長が岐阜城に在城した約9年間は、文字通り、天下が岐阜を中心に回っていた。

「信長公が美濃稲葉山城に入城して岐阜城と改め、城下町・井ノ口も岐阜と改められた1567年から安土城に移るまでの9年間。室町幕府の事実上の代行者として天下布武の朱印状を発行したり、時の将軍・足利義昭を奉じて上洛するなど、天下統一の基礎を築きました。岐阜城から安土城に移って6年後に本能寺の変に見舞われたことを考えると、武将としても一番の盛りを岐阜で過ごしたといえるでしょう。『信長学フォーラム』は信長公の領国経営の手法、楽市楽座など岐阜を舞台に見せた各種の斬新なまちづくり施策、中世を一気に近世へと近づけたとされる『時代（天下）をリードする思想』などに学び、それを現代の岐阜市におけるまちづくり、人づくりにもつなげていこうとする試みです」（細江市長）

再開発事業はその柱の一つとなる。「岐阜市にはJ.R岐阜駅と並ぶ玄関口として名鉄岐阜駅があります。今後はJ.Rと名鉄の岐阜駅とを結ぶ結節点であるJ.R岐阜駅東地区再開発の検討にも本腰を入れて取り組む予定です。さらに名鉄岐阜駅前から柳ヶ瀬方面に至る商店街の再活性化にも取り組めます。ここは、かつて市内随一の繁華街としてにぎわいましたが、百貨店などの大型商業施設の相次ぐ撤退などにより、中心市街地の空洞化が進行していました。この柳ヶ瀬地区の再活性化と周辺商業地区の再開発事業の手始めとして昨年7月、新たなまちづくり拠点『柳ヶ瀬あい愛ステーション』を開設しました」（細江市長）

柳ヶ瀬あい愛ステーションは「まちなか情報発信拠点」として、商店街の情報発信などのほか、市民や観光客の交流サロン、ボランティアグループなどのためのまちづくり会議室、キッズコーナーまで完備した多機能交流施設としての役割を果たし、市民から早くも親しまれ活用されている。

柳ヶ瀬地区では今後、大衆演劇の劇場を核とした活性化事業や空き店舗活用事業を積極的に展開する。また由緒ある古社・金神社に隣接する金公園の整備にも着手する。最終的にJ.R・名鉄の両岐阜駅前から金公園、柳ヶ瀬、長良川河畔、岐阜公園に至る回遊コースの構築も視野に入れている。

また、岐阜市ではスローライフのまちづくり



昨年11月、盛況のうちに開催された「第1回 信長学フォーラム」

岐阜市ならではの「信長公」を生かしたまちづくり

網羅され、「まちなか回遊路」として出色であることが実感された。

第1回目となった昨年のフォーラムでは、歴史学者などの多彩な講演者が織田信長の「人間像」を語った。パネルディスカッションでは信長が築いた城郭や城下町の建設思想、経営思想などについて、熱心な議論が交わされた。

また、現在、岐阜城周辺の岐阜公園では、「織田信長公居館跡」の発掘整備事業が行われている。岐阜城は今も地域の人々が「信長公」と尊称をもって呼ぶ織田信長の居城だ。

フォーラム参加者は平成19年度から開始された織田信長公居館跡の発掘現場も見学するなど、「岐阜時代の信長」に熱い思いをはせた。この居館に関して、

とが予測されていたが、実際に発掘作業が進むにつれ、その予測の正しさがあらためて確認されつつあるという。

長良川河畔の遊歩道(長良川温泉前)



岐阜市の象徴は日本有数の清流・長良川(正面右の山は岐阜城を頂く金華山)

りの理念の下、「まちなかレンタサイクル事業」に力を入れている。J.R岐阜駅南口、市役所南庁舎、市立歴史博物館など数カ所にサイクルスポットを設置し、どこから乗ってどこで返却してもいいシステムである。取材の折にこのシステムを活用し、岐阜駅〜金公園〜柳ヶ瀬〜岐阜公園〜長良川をレンタサイクルで走破してみた。このコースは岐阜市の歴史的要素・文化的要素・各種商業集積などが



毎年10月第1土曜・日曜に行われる「ぎふ信長まつり」



長良川鵜飼船乗り場に至る川原町の歴史的町並み



市民の憩いの場である岐阜公園

岐阜市が行ってきた財政基盤確立に向けた努力は、市営バス事業の民間譲渡、保育所民営化、職員定数の削減（昭和56年の4996人から平成20年には1000人以上の削減）、給与の適正化（平成19年度には中核市中、4番目に低いレベルに）、地方債残高の縮減（平成11年に1362億円あった普通債が平成19年には919億円、平成20年度末には866億円）などとなって結実した。

その結果、行政革新度ランキング（日本経済新聞・平成20年12月1日付。市民参加度も含む）では、全国806市区（当時）のうち第10位と評価された（平成18年度は16位）。「三位一体改革で国からの交付税が急減した現在、健全財

**120年目の躍進を支える
行財政改革と教育立市**

深刻な金融不況下において、市制120周年を機にさらなる積極的市政運営を実施できる岐阜市の大きなバックボーンは、ここ数年来、果敢に取り組んできた行財政改革の効果である。

政を維持するには緊縮だけでなく、限られた財源を有効な事業に、より多く振り分ける選択と集中の見極めが、何よりも重要になります。そういう意味で岐阜市では、将来の岐阜市を背負う人材育成のため、特に教育立市を意識した施策に力を入れているのです」（細江市長）

岐阜市では厳しい経済情勢の下、限られた財源の中から特に義務教育の充実に注力している。具体的には校舎の耐震化（約60億円を使い5年間で整備）、コミュニティスクールの推進、小中一貫英語教育の推進、ふるさと学習教材の整備、授業理解のための教育備品整備など多彩な事業を推進してきた。

「現代のように時代が大きく変化するとき、社会を変革する最大のインフラは、人です。特に先端技術が時代を形成する現代から近未来にかけて、優秀な人材の集積するところに企業も集積します。新時代の岐阜市を支え、発展させていくのはそうした人材だとの観点から、とりわけ情報化教育、英語教育、キャリア（起業家）教育にも力を入れていきたいと考えております」（細江市長）

市制施行120周年目の岐阜市が展開する施策は医療面、産業面、文化面など、ほかに注目すべき部分が多い。それらの施策が「岐阜都市圏100万人の中核、県都・岐阜市」を常に意識して行われているところに、未来に向かって飛翔を期す岐阜市の大いなる矜持が表れているともいえるだろう。



信長の居城として知られる金華山山頂（標高329メートル）の岐阜城

**信長学を全国に
情報発信する構想も**

「文化庁の調査官なども信長公居館跡の歴史的価値の高さには注目しているようです。発掘終了後には、高知市の坂本竜馬記念館の事例のように、全国の信長公ファンのサポートによる居館復元も考えております。

信長公の素晴らしさは単に事実上の天下統一を、初めて果たしたというだけにとどまりません。時代を改革した先進性と、その背景にある情報戦略、各種の規制緩和、全国に散らばる戦場をブロックごとに分けて担当武将に当たらせるといった常備軍編制など、全盛期の戦略的な合理性と隅々にまで至る戦術のレベルの高さは、現代にも通用する獨創性があるといえるでしょう。

岐阜市としては信長学フォーラムを毎年開催し、信長研究のエッセンスともいべき信長学を全国に情報発信していきたい。そして信長公がつくった岐阜のまちを、歴史に思いをはせながら回遊していただく歴史観光、スロートーリズムの実践を提唱し、発信していきたいと考えております」（細江市長）

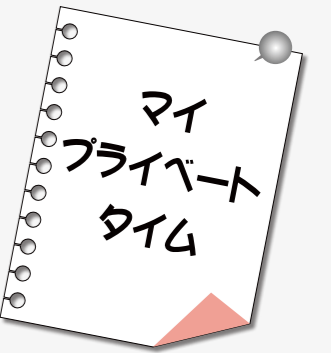
岐阜城を山頂に頂く金華山のもとに広がる岐阜公園には、織田信長公居館跡のほか、岐阜市歴史博物館や国内有数の名和昆虫博物館、日中友好庭園など多くの見どころがある。歴史公園としてより親しめるような新たなエントランス、総合案内所などの整備も年内に



1300年以上の歴史を誇る長良川鵜飼は夏の風物詩

完成予定だ。

また岐阜公園周辺には、斎藤道三の菩提寺（常在寺）をはじめとする名刹、古社、古街道などが多数点在しているほか、公園から程近い距離にある長良川河畔の鵜飼船乗り場に至る歴史的町並み（川原町）も無電柱化やペープメント整備が行われるなど、駅前から続く回遊路は完成に向けて着々と整いつつある。歴史をたどり、歴史の記憶を楽しみながらゆっくり回遊するスロートーリズムにはまさにうつつつけの環境といえるだろう。



「悦ちゃん号」誕生の軌跡

寝屋川市長(大阪府) 馬場好弘
Yoshihiro Baba

はつめぐり

私は、「行政の改革」を掲げて市長選挙に臨み、平成11年5月に第7代寝屋川市長に当選させていただきました。

平成15年、平成19年の選挙を経て現在3期目の折り返しを迎えています。

以来、行財政改革と市民との協働を市政推進の大きな柱としています。まず、自分自身が取り組めることから考え、特に公用車の使用については人件費や車にかかる諸経費をはじめ、環境負荷の低減も兼ねて、必要最小限にとどめていきます。

「悦ちゃん号」誕生

市長就任後1、2年間は、少しでも経費の節減につながればと市役所の近くで駐車場を借り、私自身が運転して登庁することともに、土曜・日曜日に庁外である公務でどうしても公用車(黒)で行かなければならないとき以外は、私自身で自家用車を運転して行っていました。

ところが、しばらくすると、私自身で運転して会場に車を止めてから一人で行くということは、会場の駐車場の関係や受付の関係で無理なことがわかりました。さりとて、公用車を使用する気になれず、そこで白羽の矢を立てたのが妻です。妻は私の会社の仕事の関係で車の運転は

ありません。

その後私は建築資材の販売店を経営し、32歳で市議会議員選挙に立候補し、連続5期20年務めました。

寝屋川市が昭和26年に市制施行したときの人口は約3万人でしたが、その後、人口が8〜9倍に急増し、街中では無秩序な開発が起きていました。それに伴い、行政需要も大きく膨らんでいきました。「何とかしなければ」との思いで、仲間の



盆踊り会場であいさつする筆者



登庁時の悦ちゃん号

していましたが、初めは嫌がっていました。当時は家と会社の往復と買い物程度と、その行動範囲は限られていたため、無理もないことでした。

しかし、しばらくすると朝・夕の私の送迎が妻の毎日の生活の一部となりました。それからもう8年が過ぎました。

車はトヨタ社の「プリウス」ですが、妻の名前が悦子であることから、いつの間にか行く先々で「市長、今日も『悦ちゃん号』ですか」と聞かれるようになりました。婦唱夫随ではありませんが、妻が運転する車に私が乗る。昔はどういう考えられないことでした。

議員と市の将来のまちづくりについて語り合いました。

この時代に交友のあった議員が今も何人かおられ、懐かしく、心強く思っています。この議員時代の体験が私の市長選挙への出馬の動機と、その後の市政運営に大きな影響を与えています。この間、選挙のたびに妻には相当苦勞を掛けました。

市長に就任してからは市議会議員当時に比べて輪をかけて公私ともに多忙になり、あらためて市長の職責の重さと厳しさを感じました。しかし、妻は愚痴もこぼさずに一生懸命、私を支えてくれました。

特に、夏の盆踊りの際は、1日に7カ所、8カ所回るときがあります。「悦ちゃん号」が1年中で最もフル回転するときです。行く先々で市民の皆さんから声を掛けていただき、ねぎらいの言葉を掛けてもらうときが、妻は至福の時だと言ってくれます。

「悦ちゃん号」の思わぬ効果

私は、市長就任以来、市役所の仕事や給与はすべて市民の皆さんの貴重な税金



悦子夫人、悦ちゃん号と筆者

市議会議員から市長へ

私が妻と結婚したのは今から42年前の昭和42年です。このころの平均結婚年齢は今と違って男性が27〜28歳ぐらいだったと思います。私は当時24歳でした。出掛けるのはいつも一人の単独行動が多く、たまに妻や子どもたちと車で出掛けるときは、当然私が運転したことは言うまで

を財源として行っていることを折に触れて言っていました。

私が毎日の登・退庁や土曜・日曜日の公務には妻の運転する車で行っていることで、職員もいつしか身近なところからコストを意識し、経営感覚を持つようになってきているのではないかと感じています。

職員の意識が親方日の丸から徐々に変わり、各部署で事務事業の改善や効率化につながっているのではないかと自負するとともに、「悦ちゃん号」の果たす役割は少なからず効果があると思っています。10年を経て、妻も官公署をはじめ市内の公共施設や出先機関の場所も大方把握し、それとともに、運転技術もいつの間にか少しは上達したように感じるのには、夫の欲目でしょうか。まさに習うより慣れるとはこのことだと思います。

ただ、車での移動中は妻の運転がもどかしく、また、道順やその時々々の感情などでつい声を荒げることもあり、妻には申し訳なく思っています。

妻との語らいの中で、私自身もたくさん「悦ちゃん号」があります。私の任期中は妻と「悦ちゃん号」にこれからもフル回転してもらい、愛着と誇りのもてるふれあいと活力に満ちたまち「元氣都市 寝屋川」の実現のため、2人と1台で仲良く頑張っていきたいと思っています。

「味覚観光都市」と「北方領土返還要求運動原点のまち」

はじめに

根室市は、オホーツク海と太平洋に囲まれ、その豊かな漁場の恩恵として新鮮な海の幸にも恵まれ、本土最東端に位置することから、日の出が日本一早く、四季を通じて雄大な自然と味覚を楽しむことができます。

根室は、今から300年以上前の元禄年間に開拓が始まり、開基は明治2年という、歴史の浅い北海道の中では古い歴史を持つまちです。明治年間の「函館県、札幌県、根室県」の北海道三県時代には根室県庁が置かれるなど、北海道開拓の歴史とともに歩んできました。

さらに、3代目将軍徳川家光の時代には北方領土の島々の入った地図が作られるなど、その歴史はとても古いものがあります。

根室市は、花咲ガニ、昆布、サケなどの北方領土近海の豊かな資源に恵まれ、水産業を中心に発展を遂げ、明治33年に「根室町」として誕生し、道東一の活況を見せていました。

昭和20年の戦災により「まち」の大半を焼失し、さらに北方領土を旧ソ連に不法占領されたことから人口は激減し、産業、経済の復興も一時は危ぶまれましたが、北洋漁業を中心とした水産業で立ち直り、わが国有数の水産都市として発展してきました。

その後、数々の漁業規制などにより漁獲高が大きく減少し、厳しい状況に置かれています。新しい海洋時代に対応するため、沿岸漁業資源の増養殖をはじめ水産資源の高次加工などの振興策を積極的に進めています。

安心な水産食品として供給するための「根室ブランド」を確立させるべく、市と関係団体・業界が一体となって、平成12年には、水産品の品質・衛生管理を向上させることを目的として「根室市水産HACCP推進協議会」を設立し、平成18年には、価値と産地情報の発信力を高めるために「根室おさかな普及委員会」を組織するなど、さまざまな取り組みを行っています。

食と観光の一体化

「味覚観光都市ねむろ」

根室半島の付け根に広がる「風連湖・春国岱」は、平成17年にラムサール条約湿地登録となり、学術的にも貴重な根室の自然の姿が、全国・海外に知られています。

干潟や湖、林、湿地、草原など多様な自然環境が残っており、さまざまな野鳥が生息し、これまでに約310種の野鳥が観測されており、これは、日本国内で観測される野鳥の半数以上に相当します。このことから、全国はもとより、英国など海外からも数多くのバードウォッチャーが訪れています。

春国岱は、オホーツク海の海流が運ぶ砂が堆積した砂丘で、約3000年前から1500年前にかけて形成された、年代の違う3

列の砂丘で構成されています。中でも、アカエゾマツ林は砂丘上に形成されており、世界で2例しかないという、非常に珍しい場所としても有名です。

さらに、根室市は桜の開花が全国で最も遅いことでも知られることから、市街地に位置する「明治公園」を、将来的には「全国で一番遅い桜」を楽しむことができる名所となるよう、現在、市民と協働で集



平成17年11月にラムサール条約湿地登録となった「風連湖・春国岱」

中的に植樹作業を進めています。また、根室市は、全道一の水揚げがあり、全国でも5本の指に入る水揚げを誇る「水産業のまち」です。すでに紹介したように花咲ガニ、昆布、サケなどが四季を通じて多く水揚げされており、特に、サンマは11年連続日本一を達成しました。

世界的に食品に対する安全性の意識が高まりを見せる中、根室市ではこれら地元の水産資源を「安全



9月に開催される根室の代表的な味覚イベント「根室かに祭り」

で安心な水産食品として供給するための「根室ブランド」を確立させるべく、市と関係団体・業界が一体となって、平成12年には、水産品の品質・衛生管理を向上させることを目的として「根室市水産HACCP推進協議会」を設立し、平成18年には、価値と産地情報の発信力を高めるために「根室おさかな普及委員会」を組織するなど、さまざまな取り組みを行っています。

このような根室市の雄大な自然と、豊富な魚介類などの食を観光資源として活用し、「食と観光の一体化」を目指したまちづくりを進めるため、平成13年に「味覚観光都市ねむろ」を宣言し、観光振興のためのさまざまな事業展開を行っています。

特に、各界で活躍する根室出身者や根室にゆかりのある方10人に「ねむろ味覚観光大使」を委嘱し、「味覚」「観光」「イベント」「自然風土」といった根室ならではの魅力を、根室の応援団として全国各地でPRしていただいています。

「北方領土返還要求運動原点のまち」

根室市は、終戦の翌日から侵攻



根室市長 長谷川俊輔

プロフィール

- ◆ 面積 512.71 km²
- ◆ 人口 3万432人
- ◆ 世帯数 1万3134世帯

〔将来都市像〕協働を合言葉に市民とともに創る活気あふれる住みよいまち根室

〔まちの特徴〕オホーツク海と太平洋に囲まれ、北海道の最東端に位置する水産のまち。日本有数の野鳥の楽園として知られる「風連湖・春国岱」。

北方領土返還要求運動原点の地
〔特産品〕花咲ガニ、サンマ、サケ、昆布、地酒、オランダせんべい、エスカロップ

〔観光〕納沙布岬、風連湖・春国岱、花咲港車石、明治公園、北方四島交流センター

〔イベント〕根室かに祭り、根室さんま祭り、金刀比羅神社例大祭、ねむろバードランドフェスティバル、北方領土ノックアップマラソン大会



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」による。人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

を語る 2

喜多方市(福島県)

喜多方市長 白井英男

豊かで元気な農山村と活力ある生活観光都市を目指して 水と緑に輝くまちづくり

はじめに

喜多方市は、福島県の西北部の中核都市として人と自然が共生し、水と緑に輝くまちづくりを展開しています。市の北西部は世界自然遺産の国内候補に挙げられた飯豊山が雄大な山容を誇り、豊かな伏流水を地域に注ぎ込み、農業や醸造業などに大きな恵みを与えています。

喜多方市といえば「蔵とラーメンのまち」として全国から多くのお客さまをお迎えし、活力ある生活・観光都市の一面を持っています。基本は農業に軸足を置き、農業から派生するさまざまな価値を最大限に生かした施策を展開しています。

地元産の小麦「ゆきちから」を原料とした喜多方ラーメン、会津地



座敷蔵を活用し、当時の雰囲気の中で藤樹学を学ぶ「清座」には多くの市民が参加

た。「中江藤樹が説こうとしたこと」「中江藤樹の人柄」「現代社会が求める藤樹の教え」などをテーマにした勉強会でしたが、予想以上の反響で、会場は常に満席状態となりました。藤樹学に対する期待の大きさの表れではないでしょうか。

この「清座」は、本来、藤樹学を学ぶ者が集い、参加者全員が討論・協議しながら、人が正しく生きる道をお説くものであります。これからは、一方的に話し、聞くだけでなく、参加者自らが考え、考えを発言し、全員で討論協議できる場としての「清座」を目指し、本市における人づくりの根幹を見いだしたいと考えています。

方の在来種から育成したソバ「会津のかおり」を活用した事業や、教育特区(喜多方市農業教育特区)による全国初の小学校農業科の取り組みなど、先駆的な事業を地域と行政が一体となり展開しています。

また、本市は平成18年1月4日に、喜多方市、熱塩加納村、塩川町、山都町、高郷村が合併して新たに誕生しましたが、それまで埋もれていた地域資源を掘り起こし、地域の元気再生にも取り組んでいます。

特徴的な取り組みとして、「太極拳」や「ボート(漕艇)」を活用した健康・福祉・教育・交流・地域活性化を図るため、それぞれ全国初となる「太極拳のまち」「ボートのまち」の都市宣言を行い、さまざまなイベントや市民に密着した事業を展開しています。

私の目指すまちづくり、人づくり

少子・高齢社会の急速な進行による地域活力の停滞に追い打ちを掛けるような百年に一度と称される世界的大不況の荒波の力には、一地方都市としてはあらがいようもなく、さまざまな影響が現れています。大企業の事業所に多くを依存する地方の自治体では、工場閉鎖による正規、非正規の区別のないリストラ、配置転換による人口減少などが進むことで、一つの街並みが消えてしまう恐れまで出てきています。本市においても市内企業の活力の低下は、地域の「物」や「心」をマイナス思考に追いやり、結果として負の連鎖が発生しかねません。このようなときこそ、地域が一丸となって「心」を定め、共通の目標を持って地域づくりに取り組むことが何より大切であると痛感しています。「心」が定まらないところからは「物」は生まれず、仮に生まれたとしても「人」のために有益な物とはなり得ません。

本市には、藤樹学だけでなく、日本のナイチンゲールと称される瓜生岩子刃自の事跡、日本の社会

「清座」で学ぶ人づくり

本市は、東日本で唯一江戸時代初期から明治時代にかけて、陽明学に基礎を成す中江藤樹の教え「藤樹学」が栄えた地でもあります。その教えは藤樹学が心学と称されていることから分かる通り、人として生きる道はもとより、規範意識やそれに基づく実践を説くことに特徴があります。

当時は、藤樹学を学ぶ場を「清座」と称し、喜多方地方に数多く設けられました。身分に関係なく、清座で勉強した人は千人を下らなかったともいわれています。その考えは住民の中に広く浸透し、思想面にも大きな影響を及ぼし、喜多方人の精神の根底には藤樹学の考えが生きているといわれています。

教育の形成・発展に尽くした蓮沼門三(修養団創設者)など、先人の教えが深く地域の行動規範として根付いています。この難局に立ち向かうため、まちづくりの基本を「人づくり」に置き、今一度先人たちの教えを再確認したいと考えています。

また、地域の足元には、まだまだ隠された資源、宝が隠されています。ほかに依存するのではなく、地域の資源を最大限に活用して自

プロフィール

- ◆ 面積 554・67km²
- ◆ 人口 5万4267人
- ◆ 世帯数 1万8413世帯

〔将来都市像〕豊かで元気な農山村と活力ある生活・観光都市

〔まちの特徴〕会津盆地の北に位置し、北西に飯豊連峰の山並み、東には磐梯山の頂を望む雄国山麓がす野に広がる風光明媚なまち

〔市町村合併〕平成18年1月、喜多方市、熱塩加納村、塩川町、山都町、



喜多方市長 白井英男



高郷村で新設合併

〔特産品〕漆器、桐工芸品、清酒、醤油、喜多方ラーメン、山都そば、アスパラガス

〔観光〕市内蔵めぐり、ラーメン食べ歩き、造り酒屋見学、新宮熊野神社長床「イベント」福寿草まつり、ひめさゆり祭り、会津塩川バルーンフェスティバル、蔵のまち喜多方祭り(夏・冬)、喜多方シテイレガッタ、太極拳フェスティバル

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



親子で楽しむボート体験教室

そこで、本市では、地域の生活規範、精神規範のよりどころとして、長くこの地域に根付いてきた「藤樹学」をさらに普及・啓発するため、「人づくり藤樹大学」を開催するなど、人づくり事業にも積極的に取り組んできました。

特に、平成20年度は、国の「地方の元気再生事業」に採択された「日本一の蔵再生によるまちおこし」の一環として、本市の代名詞である蔵を活用し、当時の雰囲気の中で藤樹学を学ぶ「清座」を開催しまし

立・自活を基本とし、人づくり、まちづくりに邁進していきます。

折しも、景気浮揚策として高速道路の料金が、東京、大阪の大都市圏を除くほとんどの地域で土日・祝日に限定し、一律1000円となりました。磐越自動車道会津若松インターチェンジで下りて北上すると、眼前に雪を頂いた飯豊山が目に見え込んできます。そこが喜多方市です。全国の皆さま、ぜひ喜多方にお出掛けください。

わが

幸せ度の高いまちづくりを目指して

はじめに

まず、大田原市の地理的、歴史的位置付けについて述べなければなりません。

本市は平成17年10月1日に隣接する旧黒羽町と旧湯津上村を編入合併致しました。関東平野の最北に位置するこの旧3市町村、つまり現在の黒羽町は、那須連山の雪解け水を発端とした地下の湧水に恵まれ、豊かな穀倉地帯として昔から栄えました。早くも、飛鳥



青少年宿泊研修センター「大田原市ふれあいの丘」シャトー・エスポワール内の天文館の65cm反射望遠鏡

時代にはこの地に豪族が勢力を張り、当時の古碑「那須国造碑」が市内に残っています。ちなみにこれは日本三大古碑の一つにも数えられ、国宝でもある大変貴重なものです。

その後、12世紀後半には、源平屋島の合戦において扇の的を射落とした那須与一の一族が那須地域一帯に城を築き、支配してました。このように、本市は、当時から地域の中心として発展してきた長い歴史を持っています。

明治以降も栃木県北地区の政治、経済、教育などの諸機能が集中する中心都市でありました。しかし、その後には整備された東京から奥州地域まで続く交通機関、具体的には国道4号線、東北縦貫自動車道路、東北本線、東北新幹線などの各交通機関は本市を外れて、すべて明治の元勳たちの開墾農地がひ

しめく那須山麓寄りに整備が進められていきました。

私が市長就任した平成2年当時、交通不便地域なるがゆえに、本市は往年の活力を失いかけていました。そのため、自信喪失に落ち込みそうに弱気な雰囲気や漂う斜陽のまちなちというイメージさえありました。

急ピッチに進められたハード整備

本市の持つ潜在能力の高さをよく知っていた私は、市長就任後、積極的なハード整備に着手しました。「高速交通網がなかったからこそ、このような素晴らしいまちづくりができた」と言えるように、不利な条件を逆手に取った積極的なまちづくりを進めてきました。高速交通網がないのだから「開発即発展」などというまちづくりは望むべ

くもありません。しかし、土地が広く、地価の安い本市の条件を生かして、教育、文化、芸術、福祉、スポーツ振興などの分野でハードの整備を進めることは、いくらでもできることでした。

そうして取り組んだ結果、いまは国際医療福祉大学、栃木県立県北体育館、素晴らしい音響効果誇る那須野が原ハーモニーホール、大規模な道の駅、65cmの反射望遠鏡を備えた天文館を含む青少年宿泊研修センター「大田原市ふれあいの丘」シャトー・エスポワールなどが市内に整備されています。これらは、その規模と質において目的通りに機能向上が図られてきており、その多くが高い評価を得るものとなっています。

まちづくりには能動的な細かい仕掛けが必要

さて、高齢社会となり、交流人口の増加による地域活力の向上を図らねばならない時代となりま

たが、本市は交通機関が整備されていないことから、途中下車や交通機関の乗り換えついでに、気軽に立ち寄ることができるような環境にはありません。本市を最終目的地としてわざわざ訪ねてきてもらえるように、さまざまな仕掛けづくりに努力することによって、初めて交流人口を呼び込めることとなります。

綱引きのまち、ゴルフのまち、鮎釣りのまち、将棋のまち、大田原マラソン大会、相撲部屋の夏合宿、那須与一のまちづくり、芭蕉の里、屋台まつり、与一まつり、国際彫刻シンポジウム、全国竹芸展など、一年中何らかの催しが行われています。それぞれの催しに合わせて、数百人から数千人規模



綱引きのまち。にちなんで開催されている全国青少年アウトドア綱引き競技会

の人々に、本市を訪ねていただいています。

市民の幸せ度を高める施策に特化する試み

しかしながら、本市程度の規模で総花的に何にでも取り組むわけにはいきません。そのため、常に施策の選択に当たっては市民の幸せ度を高めるために役に立つかどうかという判断基準に照らして選択と集中を図ることを心掛けています。

その上で、最も優先順位の高いのは教育、つまり人づくりであり、さらに健康で長生きできるような施策であることとすることに説明しています。この考えは、市民の皆さんの間にも随分定着してきているように思います。

とりわけ、現在は学校教育、情操教育、生涯学習、そして健康診査の徹底、保健指導の徹底、介護サービスの充実などを進めています。具体的な取り組みとしては、学力テストの結果を踏まえた小学校4年時対策の強化、食育の充実、幼児の発達相談の強化、乳児ヒブワクチン予防接種、はしか予防接種率の向上、成人T細胞性白血病

プロフィール

- ◆ 面積 354・12km²
- ◆ 人口 7万6188人
- ◆ 世帯数 2万6543世帯

〔将来都市像〕住む人が輝き 来る人がやすらぐ 幸せ度の高いまち
〔まちの特徴〕那須連山と八溝山系に囲まれ、那珂川と箒川が清らかに流れる水と緑、豊かな大地に恵まれた田園都市

〔市町村合併〕平成17年10月、大田原市が湯津上村、黒羽町を編入合併



大田原市長 千保一夫



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「夢と感動のテーマシティ いらさき」の実現を目指して

はじめに

山梨県の西北部に位置する韮崎市は、戦国の世に甲斐国の覇者として君臨した武田氏発祥の地であり、武田家が氏神として崇拝した武田八幡宮や勝頼公が自ら火を放った悲運の城である新府城跡など、武田家ゆかりの史跡が市内の至る所に点在する。甲斐武田氏のふるさとでもあります。また、周囲には雄大な霊峰・富士をはじめ、南アルプス、八ヶ岳、茅ヶ岳といった日本の名峰がそびえ立ち、本市が誇るべき大自然のパノラマが360度に展開します。

さらには、モモ、ブドウなどの果樹や甘利山のレンゲツツジ、一本桜で知られるわに塚の桜など豊かな自然が織りなす風景は市民や訪れる人々に安らぎとぬくもりを感じていただけるまちです。

一方で、中央自動車道、中部横断自動車道、国道20号、52号、141号などの主要幹線道路が集中する優位な交通条件を生かした工業団地の整備や企業誘致により、先端技術産業の立地が進み、現在は県内有数の製造品出荷額を誇る工業都市でもあります。

第6次長期総合計画のスタート

今年度は、今後10年間の本市のまちづくりの指針となる「第6次長期総合計画」のスタートの年に当たります。この計画の基本理念は、「豊かな自然と歴史を愛し、美しい心と強い絆のまちづくり」「夢と感動を共有し、多様な価値観に対応できるまちづくり」「市民が協働し、新しい創造力を備えた人が集まるにぎわいのある豊かなまちづくり」の3つです。

また、本市が目指す将来都市像を「夢と感動のテーマシティ いらさき」と設定し、地域に住む人が子どもから高齢者まで夢を持ち続け、その実現により感動することができると、そしてまちを訪れた人もさまざまな魅力に触れ、感動することができると目指すものです。さらに、計画の推進テーマを「美しく、人・地域が輝く未来へのものがたり」と致しました。これらの基本理念、推進テーマに基づき実施する主な施策の一部をご紹介します。

心地よい定住環境のあるまちづくり

長年、懸案となっていた市所有の広大な山林につきましては、この用地を有効活用した「穂坂の森・自然公園」の整備や「ふるさと協議会」を中心とした市民の方々の協



「わに塚の桜」田園の中の孤高の一本桜。凛として咲き誇る姿は尊く美しい

ターチェンジ西側の「農工団地」の造成計画につきましては、周囲の山々を一望できる風光明媚な地であることとショッピングセンターなどの市街地へも車で3分という好立地条件を生かすとともに、地権者の皆さまをはじめ地域の方々のご理解とご協力をいただきながら、優良企業誘致による雇用の拡大や創出を図り、周辺地域の特徴を生かしたまちづくりに努めているところです。

さらに、市西部に位置し、恵まれた歴史と景観が織り成す神山地区は、武田氏ゆかりの歴史遺産などの文化財や名所が数多く点在しており、本市の名誉市民で北里研究所名誉理事長・女子美術大学理事長の大村智様から寄贈された「韮崎大村美術館」なども活用し、自然と歴史と文化が調和した総合的な「武田の里まちづくり」を推進することとしております。このまちづくりは、文化庁の「文化財総合的把握モデル事業」の採択を受け、地域の皆さまとの協働により基本構想の準備を進めているところです。

魅力あふれるまちづくり

このたび、中央本線韮崎駅前に

民間活力による大型ショッピングセンター「ライフガーデンにらさき」がオープンいたしました。これにより、人が集まりにぎわいを創出する「人の来るまちづくり」が図られ、この効果が周辺地域にも波及し、新しい都市計画の「まちなか活性化」につながっていくものと期待するところです。また、「韮崎市まちなか活性化計画」に基づき、「中心市街地の再生」「新たなイメージづくり」を推進するため、「まちなか活性化促進提案型事業補助金」を充実するとともに、商店街の皆さまにより運営されております「いらさき朝市」につきましても、内容や展開場所などの拡大も含め、引き続き支援し、商業の振興につなげてまいります。

おわりに

少子高齢化の進行、国際化、高度情報化の進展や地球規模での環境問題への対応、金融危機に端を発した世界経済動向の激変など、近年の社会経済情勢は急激に変化しており、地域社会や市民生活にさまざまな影響を及ぼしています。また、地方分権が進展する中で、市民の各種ニーズに対応し、持続

的で良質な行政サービスを提供するためには、行政改革の徹底や財政基盤の強化を図るなど、自治体としての自立性を高め、これまで以上に効果的かつ効率的な自治体運営に努めていくことが求められております。

このため、あらゆる課題に迅速に対応し、本市が持つさまざまな魅力を生かしたまちづくりを進めるべく、新たな長期総合計画を策定しました。本市には県北部地域における交通拠点をはじめ、恵ま

れた歴史・文化資源や豊かな自然環境など、これまで培ってきた中核都市としての優れたポテンシャルがあり、そこには、いつの時代も市民が中心的な役割を担い発展を続けてきた、韮崎市ならではのまちづくりの伝統と精神が息づいております。今後も本市を彩るさまざまな資源と地域の絆を基に、市民の皆さまとの協働により、夢と感動を共有し、さらなる飛躍と発展を目指してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 143.73 km²
- ◆ 人口 3万2359人
- ◆ 世帯数 1万2293世帯

〔特産品〕 水稲、ブドウ、モモ、リンゴ

〔観光〕 わに塚の桜、甘利山のレンゲツツジ、武田八幡宮本殿、南アルプス鳳凰三山、平和観音、新府城跡、韮崎大村美術館、銀河鉄道展望公園、深田記念公園

〔まちの特徴〕 南アルプス・八ヶ岳・奥秩父山系に囲まれた山紫水明の地。武田氏発祥・終焉の地としても有名。交通の利便性を背景に、先端産業が立地

〔イベント〕 武田の里まつり、武田の里ウォーク、武田の里サッカーフェスティバル、福祉の日記念まつり、甘利山フォトコンテスト



韮崎市長 横内公明



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

市民力の結集でつくる「おかげさま」のまち

「神宮御鎮座のまち」として

伊勢市は、平成17年11月1日に伊勢市、二見町、小俣町、御園村が合併して誕生したまちで、三重県の中東部、伊勢平野の南端部に位置しています。

伊勢志摩国立公園の玄関口でもある本市は、北には伊勢湾の豊かな海、中央には日本一の清流を誇る宮川や五十鈴川、東から南にかけては朝熊山、神路山、前山、鷲嶺の山々、西には大仏山丘陵と、バリエーション豊かな自然に彩られた、美しいまちです。

本市は、古くから「お伊勢さん」と呼ばれ、日本人の心のふるさととして親しまれ、神宮御鎮座のまちとして栄えてきました。20年ごとに繰り返される「神宮式年遷宮」は、人々の思いを技術とともに後世に伝え、今も、1300年もの

はるかな昔と同じ方法で新しい社殿が造営され、神宝や装束も整えられています。

平成20年の1年間で外宮と内宮の参拝者数は、合計750万人を超え、平成21年の三が日の初詣で客数は67万9000人と、前年を7万7000人ほど上回りました。特に年末年始の内宮周辺は、江戸時代に社会現象ともなった「おかげまいり」さながらのにぎわいで、大御神が新しい社殿に遷られる平成25年秋を控え、これからも本市への来訪者は増えていくと思われまします。また、本年11月3日には、五十鈴川に架かる木造の宇治橋の渡り始めが行われ、奉祝によるにぎわいを期待しています。

遷宮行事関連以外でも、本年5月30日(土)、31日(日)には、花と緑で訪れた皆さまをお迎えする「第52回全日本花いっぱい伊勢大会」

が、また9月8日(火)〜13日(日)には、世界の50の国々と地域から多数の選手や大会役員が集まる「第29回世界新体操選手権三重大会」が本市で開催され、関係者をはじめ、国内外からたくさんのお客さまをお迎えします。

参加自由なプロジェクトで「観光のまち」をつくる

本市では、平成19年9月に「伊勢観光活性化プロジェクト会議」を立ち上げました。ここでは市民、事業者、団体、行政を問わず、観光のまちづくりに興味のある者が集まり、伊勢に來られる皆さまに満足していただくためにはどうすればよいか、どうやって「伊勢」を発信していけばよいかなどについて話し合っています。会議は常にオープンで、興味があればどなたでも参加可能となっています。



伊勢観光活性化プロジェクト会議の様子

会議の理念は「聖地伊勢から「おかげさま」の心を伝えよう。」です。この理念は参加者が考え抜いてつくったもので、「おかげさま」の心」という言葉には、「人間は、正しい自分の力によって「生きていく」と思いがちですが、自然、人、他の生命など、多くのものによって「生かされている」のです。その自分を取りまくさまざまな「他なるもの」に対する感謝の気持ちがある

「お伊勢さん」は、ここに住むわれわれがつくるものです。伊勢に來られる皆さまが、参拝で心が洗われるように、市民との交流の中で幸せを分かち合い、心豊かな気持ちで帰っていただけることを願ってやみません。そのために、市民一人一人がおかげさまと互いに

言えるような関係を築き、市民力を結集して、感謝の気持ちでお客さまをお迎えする態勢づくりを進めています。

プロフィール

- ◆ 面積 208.53 km²
- ◆ 人口 13万4870人
- ◆ 世帯数 5万3255世帯

【将来都市像】

美し風起つ回帰新生都市
伊勢志摩国立公園の玄関口として歴史文化や美しい自然に恵まれる。

【市町村合併】平成17年11月1日、伊勢市・二見町・小俣町・御園村が新

設合併

【特産品】伊勢うどん、伊勢たくあん、ひじき、蓮台寺柿、伊勢春巻、真珠、伊勢玩具

【観光】伊勢神宮、おはらい町、おかげ横丁、二見浦、夫婦岩、河崎の町並み、神宮御鎮座、朝熊山

【イベント】おひなさまめぐりin二見、伊勢神宮奉納全国花火大会、かんこ踊り、伊勢まつり、神嘗奉祝祭、お伊勢さん健康マラソン



御用材を運ぶ「お木曳」行事

遷宮にかかわる行事の一つに、社殿の材料となる御用材を運ぶ「お木曳」という行事があります。この行事のため、神領といわれる古くからの地域はもちろん、合併して「伊勢市」となった地域の一部で

「市民力の結集」を期待して

環境ツーリズムの視点でお伊勢参りをしてもらってはどうかだろうか。」「子どもたちに駅前で案内人体験をしてもらい、自分の住むまちの素晴らしさに気付いてもらおう！」など、どの事業もすべて自由な意見交換の中で進められています。

また、本年3月には、会議の思いや取り組み、参加者の紹介などが掲載されたホームページが立ち上がりました。行政的な堅さのない、ぬくもりがじかに伝わるような内容は、参加者手づくりならではの特徴といえるでしょう。

発足から1年半が経ち、観光業とは縁のない方も、学生や県外出身の方も、また観光で生計を立てている方も、行政も、皆が手探りで進める中で、立場を超えたつながりができ、得意分野を生かした連携が生まれています。まさに「市民力の結集」です。



伊勢市長 森下隆生



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「住みよさ実感 瀬戸内交流文化都市 たけはら」を目指して

はじめに

竹原市は、広島県沿岸部のほぼ中央に位置し、豊かな山と穏やかな



「道の駅」のオープンによりさらなる交流人口の増加が期待される町並み保存地区

な瀬戸内海に面した自然と人とはぐくまれた歴史と文化が息づく人口約3万人のまちです。広島空港や山陽自動車道河内ICから南へ車で25分、竹原港・忠海港といった2カ所の地方港湾を有する交通の要衝でもあり、これらの地理的な財産を生かしながら、市民一人一人がゆとりある暮らしを楽しむ、さらに豊かな未来へつなげるために、新たなにぎわい創出を目指した都市づくりを進めています。

古くは平安時代より京都下鴨神社の荘園として栄えた竹原は、温暖少雨の気候を生かし、江戸時代には製塩業で飛躍的に発展しました。

その富で発展した上市・下市地区の町並みには、贅を凝らした重厚な家々が立ち並び、今でも往時の姿をとどめ、昭和57年には国の

重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。本市も、多くの市町と同様、人口減少が進んでおり、高齢化率も30%を超え、将来的にも厳しい人口減少・高齢化の進展が予想されます。このような状況の下、持続可能な行財政運営や竹原らしい個性的で魅力あるまちづくりの推進に向けて施策を展開しています。

住民協働のまちづくり

本市では、本年3月に「第5次竹原市総合計画」を策定し、「住みよさ実感 瀬戸内交流文化都市 たけはら」を目指す将来像に掲げました。

地方分権が進展する中、住民自らが地域のことを考え、地域の特色を生かしたまちづくりを行うためには、市民や各種団体もまちづ

くりの一員として、行政とのパートナーシップの下で、協働してまちづくりに取り組むことが重要であると考えています。

こうした中で、本市の持つ自然環境や歴史文化、コミュニティなど、持てる地域資源を生かして、多彩な交流・ふれあい、さらなる歴史文化をはぐくみ、生き生きとした暮らしやまちの活力・魅力を継承・発展させ、「訪れたい、住んでみたい、住み続けたい、そして住んでよかったと思えるまち」の実現を目指しています。

本計画の基本構想では、まちづくりの大切なキーワードを「協働」とし、人と人、地域と地域のかかわりの中で互いの力を引き出し合い、個々の力を重ね合わせることで、個々の可能性を広げていくように、まちづくりの推進力をみんなで築いていくことを目指しています。

また、地域コミュニティの充実を図り、多様な取り組みの主体が

信頼関係を築きながら、連携・協力し、創意工夫できる協働のまちづくりを推進しています。現在、自治会、市民活動団体などが連携する住民自治組織の設立と地域の

将来計画である地域行動プランの策定をサポートしていますが、引き続き住民自治能力の向上を図りながら、地域の課題解決、魅力アップなどを地域と行政が共有して、自助、共助、公助の下に取り組んでまいります。

交流と暮らしの軸づくり

歴史的景観を今に残す町並み保存地区に隣接し、一般国道185号と主要地方道三原竹原線が交差する中心市街地に、従来の「道の駅」の機能である休憩機能、情報発信機能、地域連携機能に加えて、国道185号沿線で初めてとなる防災拠点機能を兼ね備えた都市型の「道の駅」を整備しています。

平成22年秋にオープン予定である、この「道の駅」は、町並み保存地区を訪れる観光客のゲート



住民参加により開催する秋のイベント「たけはら憧れの路」準備作業



竹原市長 小坂政司



【特産品】パレイシヨ、タケノコ、ブドウ、ジャム、清酒、レング
【観光】町並み保存地区、休暇村大久野島、たけはら美術館、湯坂温泉郷
【イベント】桜まつり、竹まつり、たけはら憧れの路、夏まつり花火大会、忠海祇園祭、二窓の神明祭

プロフィール

- ◆ 面積 118.3km²
- ◆ 人口 2万9860人
- ◆ 世帯数 1万2993世帯

【将来都市像】人・自然・時の豊かさ
「住みよさ実感 瀬戸内交流文化都市 たけはら」

【まちの特徴】陸・海・交通の要衝で、かつては製塩業で栄えた。上市・下市地区の町並みは、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定。現在、地

けて港町としてにぎわい、発展してきた歴史のある地域です。

平成19年9月に、国道185号沿線地域の住民と団体などで構成する「R185みちばた会議」が行ってきた、みちばたフォーラム、案内看板の設置、瓦版・マップの発行、地域再発見のバスツアーなど、地域の活性化に向けた活動の成果が認められ、国土交通省が進める「日本風景街道」の中国地方登録第1号に認定されました。市民との協働によるまちづくりを推進

する本市にとりまして、意義深く名誉なことです。

今後も、地域のパートナーシップをさらに強化し、より質の高い「日本風景街道」を目指すとともに、住民主体の地域づくりを積極的に支援し、地域の活性化につなげていきます。

これからも、市民の皆さまと共に、一人一人が輝き、豊かさに住みよさを実感することができるよう竹原市の実現に向けて取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

自然・ひと・文化が共につくるきよらの郷

はじめに

奄美市は、平成18年3月20日に旧名瀬市、旧住用村および旧笠利町が合併して誕生しました。鹿児島県本土と沖縄のほぼ中間に位置し、大小8つの有人島からなる奄美群島の拠点都市です。

白い砂浜とさんご礁、特別天然記念物のアマミノクロウサギやルリカケスなどが生息する深い森、



皆既日食のPRポスター

その森と海をつなぐマングローブ原生林の広がり。世界自然遺産登録を目指すこれらの豊かな自然を身近で体験できるのが、本市の一番の魅力です。昨年「奄美市世界自然遺産登録推進のための寄付条例」を制定し、奄美ファンを対象に寄付金活動も行っています。

また本市には、先人たちの努力により守り受け継がれてきた伝統工芸品「本場奄美大島紬」や特産品「黒糖焼酎」などの全国ブランドがあります。これらの伝統技法を生かし、新たなモノづくりに果敢に挑戦していく公募・提案型事業「知恵のチャレンジ」にも取り組んでいます。

7月22日の皆既日食に向けて

さて、今年の7月22日には今世

紀最大の天体ショーとなる「皆既日食」が本市で観測されます。日本では46年ぶりに体験できるものです。国内はもとより、世界中から多くの観測者の来島が見込まれています。そのため、受け入れ態勢には万全を期すと同時に、観光地奄美を世界に発信できる千載一遇の好機ととらえ、音楽祭をはじめ多彩なイベントが企画されています。奄美大島の空の玄関と海の玄関、奄美空港と名瀬港はどちらも本市にあります。一人でも多くの皆さまがこの奄美の地に降り立ち、世紀の瞬間に立ち会えることを期待しています。

「二集落1ブランド事業」で活性化に取り組む

地域活性化の原動力となる「ユイ（結）」の精神が今なお温存されてお

り、伝統芸能である「八月踊り」や集落行事の実施に当たっては、地域力の発揮を推進しています。こうした奄美地域の特色を生かした「市民との共生・協働」によるまちづくりの一環として「二集落1ブランド事業」に取り組んでいます。各集落にある「シマの宝」を奄美市集落ブランドとして認定し、ホームページや新聞などで広く紹介することによって、地域の再発見を促し、ブランド体験モニターツアーの実施やブランド認定品の商品化を図るなど、新たな事業展開を目指しています。現在、八月踊りや島唄などの伝統文化、自然景観、食などの19品目をブランドとして認定しています。

地域文化の保存・継承と振興

昨年は「ねんりんピック鹿児島2008」の民謡大会が本市で開催されました。全国大会で何度も優勝するなど、島唄は奄美の芸能文

化のトップランナーです。文化は、人々に感動や生きる喜びをもたらすし、シマ（奄美市）の魅力も高めてくれます。

本市では地域の宝である伝統文化や文化財などの掘り起こしと学術的調査を行い、郷土学習、観光産業などを網羅し、「文化財を活かしたまちづくり」の計画策定に着手しています。文化財については笠利地区にある国指定の赤木名城跡を含めた文化的景観事業や名瀬地区にある小湊フワガネク遺跡の国指定に向けた活動などを展開しています。これら、有形、無形の奄美市の文化を、未来の世代に大切に残していくこととしています。



伝統芸能の一つでもある八月踊り

子どもたちの明日のために

21世紀を担う子どもたちが身に付けなければならないのは「豊かな人間性」「確かな学力」「たくましく生きるための健康・体力」を備えた「生きる力」と考えています。その力をはぐくむため、地域に開かれた学校づくりや、豊かな自然や郷土の教育的風土に根ざした体験活動、地域の人材を生かした学習、小規模校の活性化や特色ある教育活動の支援を行っています。

また、姉妹都市のナカドウチエス市（米国テキサス州）との交流を通して、国際的な視野に立ち、郷土を愛する人材の育成に努めているところではあります。

さらに、鹿児島大学大学院奄美サテライト教室の運営を支援し、人材の育成に努めるとともに、鹿児島大学や琉球大学、奄美産業クラスターの会員企業などと連携し、奄美の未利用資源を生かした研究開発を促進するなど、子どもたちの明日のための布石を打っています。

おわりに

早いもので、本市が誕生して4年目を迎えました。合併によるス

ケルメリットを生かしつつ、分権時代に対応した行政改革や財政優遇措置などにより比較的スムーズな船出となっています。祭りや各種イベントの盛況から、奄美市民としての一体感が着実に芽生え、浸透しているものと感じています。私は、初代奄美市長という重責を担ってからは、未来への揺るぎない歩みと、何よりも「市民との共生・協働の意識」の醸成が極めて重要であると考え、市政運営を進めてまいりました。国際的な金融危

プロフィール

- ◆ 面積 306.48 km²
- ◆ 人口 4万8146人
- ◆ 世帯数 2万3805世帯

〔将来都市像〕自然・ひと・文化が共につくるきよらの郷

〔まちの特徴〕亜熱帯海洋性気候の豊かな自然と、島唄や八月踊りなどの古くから伝わる独特な文化を持つ。

〔市町村合併〕平成18年3月、名瀬市、



奄美市長 平田隆義



- 住用村、笠利町で新設合併
- 〔特産品〕本場奄美大島紬、黒糖焼酎、ハブ皮製品、黒糖、パイアの味噌漬、ウニの缶詰、鶏飯
- 〔観光〕奄美パーク、あやまる岬、大浜海浜公園、金作原原生林、黒潮の森マングローブパーク
- 〔イベント〕奄美まつり、あやまる祭り、三太郎まつり、奄美市まなびフェスタ

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。